101 なかまづくりとかず

10101 ◇第1時の授業 p1, p2

(1)・1ページを開きます。1ページの「1」はどこに書いてありますか。
　　指します。このページは「1ページ」と言います(同同同)。
(2)・上の字は「比べたことがあるかな」と書いてあります。
・ここに、緑の人がいます。これからよく出てくる人です。
　ますりんと言います。みんなで言います。「ますりん」(同同同)。
・幼稚園の時の写真が並んでいます。
・一番上の黄色い帽子をかぶった女の子の写真を指でさします(さす)。
　女の子は何人いますか(2人)。
・女の子たちは、両手でどんぐりを持っています。。
・2人は何を比べていますか(どんぐりはどちらがいっぱいあるか)。
・いっぱいあることを「多い」といいます。「多い」(同同同)。
・「多い」の反対は何ですか(少ない)。みんなで「少ない」(同同同)。
・どっちが多くてどっちが少ないか、数えなければわかりませんね。
※どんぐり拾いの経験談を交えながら進める
(3)・次の写真を見ます。積み木を使って、どんどん高くしています。
・何を比べていますか(積み木の高さ)。
・こっちの男の子と女の子のチームは、顔の所まで高くなっています。
　まだ積めそうですね。
・こっちの男の子と女の子のチームは積むのをやめています。
　なぜだと思いますか(これ以上積んだら壊れそうだから)。
・なぜそうなったと思いますか(斜めに積んだから)。
・高い方の積み木を指さします(さす)。
・みんなで言います。「高い」(同同同)。
・こちらの方は「高い」の反対です。何と言えばいいですか(低い)。
・みんなで言います。「低い」(同同同)。
※積み木遊びの経験談を交えながら進める
(4)・黒板の前に立っている男の子と女の子の写真を見ます。
・2人とも、お弁当を食べるときに使うシートを広げています。
・2人は何を比べていますか(シートの広さ)。
・どちらが広いですか(女の子のシート)。
・広いとたくさんの物が置けますね。みんなで言います。
・「広い」(同同同)。
・「広い」の反対は何ですか(せまい)。男の子が持ってるシートですね。
　狭いけどカラフルでいいですね。
・みんなで言います。「せまい」(同同同)。
※敷物の経験談を交えながら進める
(5)・サツマイモを持っている2人の女の子の写真を見ます。
・2人は何を比べていますか(大きさ、重さ)。
・どっちのサツマイモの方が重いと思いますか(左側の女の子)。
　両手で持っているから重いかもですね。
・みんなで言います。「重い」(同同同)。
・しましまの女の子は片手で持っています。
・　「重い」の反対は何ですか(軽い)。
・みんなで言います。「軽い」(同同同)。

※サツマイモ掘りの経験談を交えながら進める

(6)・コップにジュースが入っている写真を見ます。
・どちらのコップに入っているジュースが多いですか。指をさします。
こっちの方だと思う人？こっちの方だと思う人(挙手多数)。
・みんなで言います。「多い」(同同同)。
・では、こっちのコップの方は「多い」の反対だから(少ない)。
・みんなで言います。「少ない」(同同同)。
・こういう時は、みんなだったらどうしますか
(じゃんけんをする、多い方から少ない方にジュースを分ける)。

※量が違う時の経験談を交えながら進める

・さっきも多い少ないがありました。何のときですか(どんぐりの数)。
・数を比べるときも、ジュースの多さを比べるときも多い少ないと
言うのですね。

(7)・次のページを開きます。ここは何ページですか(2ページ)。
・どこに書いてありますか(指す)。
・一番上に「おおいのはどちらかな」と書いてあります。
・ますりんが見ている一番上の写真を見ます。
・青い入れ物に、ペンが入っています。
・(ICT)こっちとこっち、ペンが多いのはどちらですか。
・こっちの方だと思う人？こっちの方だと思う人(挙手多数)。
・鉛筆を持ちます。多い方を、このように丸で囲みます(作業)。

(8)・その下のセロテープの写真を見ます。
・緑色のセロテープと青のセロテープがあります。
・(ICT)こっちとこっち、多いのはどちらですか。
・緑の方だと思う人(挙手少数)。青い方だと思う人(挙手多数)。
・緑色のセロテープの方が大きいですが、いいですか(いい)。

※実物を提示する

・そうです。「大きい」と「多い」は違います。
・先生の後について言います。
「緑のセロテープは」(同)「大きいけど少ないです」(同)
「青のセロテープは」(同)「小さいけど多いです」(同)。
・鉛筆を持ちます。多い方青のセロテープを丸で囲みます(作業)。

(9)・一番下の写真を見ます。消しゴムと筆箱の写真です。
・(ICT)こっちとこっち、多いのはどちらですか。
・消しゴムの方だと思う人(挙手多数)。筆箱の方だと思う人。
・筆箱の方が大きいですが、いいですか(いい)。　※実物を提示する
・そうです。「大きい」と「多い」は違います。
・先生の後について言います。
「消しゴムは」(同)「小さいけど多い」(同)
「筆箱は」(同)「大きいけど少ない」(同)。
・鉛筆を持ちます。多い方を丸で囲みます(作業)。

(10)・スキル2番を開きます。　※スキル初期のシステムで進める

★ポイント(10101)

(1)授業のきまりやルールを知り、動ける。

〇準備……机上の用具の住所を確定する。　※机の住所を絵で板書
　　教科書は手元中央、筆箱は上部等。

〇片付け…机の中の用具の住所を確定する。　※机中の住所を絵で板書

〇挙手……掌を前面にする。指を揃える。肘を曲げない等。

〇返事……名前を呼ばれたら必ず言う。「はい」→「はいっ」。

〇発問に対する答え方　※指示発問集では省略されている

・質問……「女の子は何人いますか、Ａさん(指名)」。

・答え方…「はい。女の子は2人います」。

①返事をする。

②主語を言う。(質問に対応した答え方をする)

③文末を丁寧語でしめくくる(～です)

※個別評定と激励を忘れずにする

(2)量の表現の仕方を知り、声に出して覚える。

〇数　(多い、少ない)

〇高さ(高い、低い)

〇広さ(広い、せまい)

〇重さ(重い、軽い)

〇かさ(多い、少ない)

(3)「多い」と「大きい」の2要素の扱い

〇聞かれているのは「多いのはどちらかな」なので、「大きい」は捨象。

《おしゃべり》≈

(1)緑のセロテープは、大きいけど少ないです。

(2)青のセロテープは、小さいけど多いです。

10102　◇第2時の授業　p3, p4, p5

(1)・3ページを開きます(作業)。先生チェック。
(2)・上の字は「1. なかまづくりと数」と書いてあります。
・みんなで読みます。「1」(同)「仲間づくりと」(同)「数」(同)。
・その下に、白い字で「たりるかな」と書いてあります。
・うさぎさんがたくさんいる絵を見ます。
・机の上にタンバリンが置いてあります。指さします(さす)。
・うさぎさんがタンバリンを使います。1人1こ使います。
・タンバリンはたりますか？
・たりると思う人(挙手多数)。たりなくなると思う人。
(3)・調べます。(ICT)こちらを見ます。
・このタンバリンを使う人は桃色のうさぎさんです。
・鉛筆を持ちます。このタンバリンからかき始めます。
桃色のうさぎさんにつなぎます。みんなで一緒にやります。
・鉛筆を持ちます(持つ)。　※描き始めは主語の(タンバリン)
・一番端のタンバリンに、鉛筆の先を置きます(作業)。
・そして桃色のうさぎさんの方へつなぎます(作業)。
・つなぎ終わったら、鉛筆をもとの所に戻します。
・できた人は手を挙げます。先生が丸つけに行きます。　※チェック
(4)・次のタンバリンは誰が使いますか(青色のうさぎさん)。
・同じように、鉛筆でつなぎます。できた人は手を挙げます(作業)。
※チェック
(5)・同じようにして、残りのうさぎさんの分に鉛筆で線をつなぎます。
全部つないだ人は手を挙げます　※チェック
(6)・全部のうさぎさんの分のタンバリンがありました。
・「タンバリンはたりますか」と聞かれたら、このように言います。
「タンバリンはたります」(同)。
(7)・ねこさんがたくさんいる絵を見ます。
・真ん中にいすが置いてあります。指さします(さす)。
・ねこさんが、いすにすわろうとしています。1人1こ使います。
・いすはたりますか？
・たりると思う人。たりないと思う人(挙手多数)。
(8)・調べます。(ICT)こちらを見ます。
・さっきと同じようにつなぎます。　※描き始めは主語の(いす)
・このいすは黄色いねこがすわります。鉛筆でつなぎます(作業)。
・つなぎ終わったら、鉛筆をもとの所に戻します。
・できた人は手を挙げます。先生が丸つけに行きます。　※チェック
(9)・同じようにして、残りのねこの分に鉛筆で線をつなぎます(作業)。
全部つないだ人は手を挙げます　※チェック
(10)・すわれないねこさんがいましたね。
・「いすはたりますか」と聞かれたら、このように言います。
「いすはたりません」(同)。
(11)・次のページを開きます。何ページですか(4ページ)。
・くまさんがいる絵を見ます。真ん中に一輪車が置いてあります。
・くまさんたちが一輪車を使おうとしています。1人1こ使います。
・一輪車はたりますか？
・たりると思う人(挙手多数)。たりないと思う人。
(12)・調べます。(ICT)こちらを見ます。

・さっきと同じように一輪車からかきはじめてつなぎます。
・つなぎ終わったら、鉛筆をもとの所に戻します。　※チェック
・一輪車はたりましたね。
・みんなで言います。「一輪車はたります」(同)。
(13)・では、質問を変えます。くまさんと一輪車、多い方はどちらですか。
・くまさんの方が多いと思う人、一輪車の方が多いと思う人(挙手多数)。
(14)・調べます。ブロックケース2本を机の上に出します(作業)。
・机の上の方に置きます(置く)。　※机の配置チェック
・ブロックは、何色と何色がありますか(黄色と白)。
・下の写真のこちら側(左側)を見ます。
・一輪車の上に黄色いブロックを乗せていますね。
・くまさんの上には何色のブロックを乗せていますか(白)。
・写真と同じように、ブロックを乗せます。
※ケースからブロックを取り出して並べる
(15)・右側の写真を見ます。黄色いブロックを1列に並べていますね。
・黄色いブロックは、下の一輪車の所に並べます。
白いブロックも1列に並べようとしています。
・白いブロックは、くまさんの所に並べます。
・同じようにして、ブロックを1列に並べ替えます(作業)。
・一輪車とくまさん、多い方はどちらですか(一輪車)。
・1列にして並べると、どちらが多いか、すぐにわかりますね。
(16)・次のページを見ます。何ページですか(5ページ)。
・チューリップとチョウチョの絵がかいてます。
・チョウチョがチューリップにとまろうしています。1匹に1本使います。
・チューリップはたりますか？
・たりると思う人。たりないと思う人。
(17)・調べます。(ICT)こちらを見ます。
・さっきと同じようにチューリップからかき始めて繋ぎます(作業)。
・つなぎ終わったら、鉛筆をもとの所に戻します。　※チェック
・チューリップはたりました。
・みんなで言います。「チューリップはたります」(同)。
(18)・では、質問を変えます。
・チョウチョとチューリップ、多い方はどちらですか。
・チョウチョの方が多いと思う人、チューリップの方が多いと思う人。
・チョウチョの上に黄色いブロックを乗せます。
・チューリップの上に白いブロックを乗せます(作業)。
(19)・ブロックを1列に並べて比べます。
・黄色いブロックは、下のチョウチョの所に並べます。
・白いブロックは、チューリップの所に並べます(作業)。
・チョウチョとチューリップ、多い方はどちらですか(同じ)。
・みんなで言います。「チョウチョとチューリップは同じ数です」(同)。
(20)・片付けをします。まずブロックから片付けます。
・全部片付けたら手を挙げます。　※チェック
(21)・スキル3番を開きます。　※スキル初期のシステムで進める

★ポイント(10102)

(1)「1対1対応」直接比較で、道具はたりるかどうかを調べる。
　〇主体(タンバリン,いす)から鉛筆線をスタートする。
　〇結果を説明する。主体を主語にする。

《おしゃべり》
(1)タンバリンはたります。
(2)いすはたりません。

(2)「1対1対応」間接比較で、道具はたりるかどうかを調べる。
　〇具体物の数を半具体物(ブロック)の数に変換する
　〇ブロックを横1列にして比べる。
　〇ブロックで比べると、比べやすいことを知る。
　〇結果を説明する。
　　「たりるかな」から「多い方はどちらですか」と、質問を変える。

《おしゃべり》
(1)一輪車とくまさんでは、一輪車の方が多いです。
(2)チョウチョとチューリップは同じ数です。

(3)ブロック作業の手順を知る。

《手　順》
(1)一輪車1台につき、1この黄ブロックを乗せる。
(2)くま1匹につき、1この白ブロックを乗せる。
(3)黄ブロックを集めて横に並べる。
(4)白ブロックを集めて横に並べる。
(5)横一列の長さで判断する。

10103　◇第3時の授業　p6, p7

(1)・6ページを開きます。　※チェック
(2)・上の字は「同じ数の仲間を探そう」と書いてあります。
・みんなで言います。「同じ」(同)「数の」(同)「仲間を」(同)「探そう」(同)。
・下の絵を見ます。ここは、動物たちの学校の教室です。
・先生は、ライオン先生です。指でさします(指す)。
・おとなりの人で、まだ探している人がいたら、教えてあげます。
こういうことを、これからは「おとなりチェック」と言います。
・ほかにライオンはいませんから、先生は1人です。
・時計を指さします(指す)。お隣チェック。時計も1こだけです。
・オルガンを指さします(指す)。お隣チェック。
オルガンも1台だけです。
(3)・左下のここ(ICT)を見ます。
・ライオン先生も、時計も、オルガンも1つでした。
・この3つを「1の仲間」と言います。「1の仲間」(同同同)。
・次のように言います。
「ライオンは、1の仲間です」(同)「時計は、1の仲間です」(同)
「オルガンは、1の仲間です」(同)。
・1の仲間は、他にありませんか。分かったら手を挙げます。
(テレビ、黒板、白いラック)。
・テレビを説明します(テレビは1の仲間です)。　※他も同様
(4)・次は、パンダを探します。何人いますか(2人)。
・パンダは1の仲間ではないです。何の仲間ですか(2の仲間)。
・黒板消しを探します。何こありますか(2こ)。何の仲間(2の仲間)。
・じょうろを探します。何こありますか(2こ)。何の仲間(2の仲間)。
・説明します。
「パンダは2の仲間です」(同)「黒板消しは2の仲間です」(同)
「じょうろは2の仲間です」(同)。
・2の仲間は他にありませんか(ごみばこ、いす)。　※同様の説明
(5)・次は、うさぎさんを探します。何人いますか(3人)。
・帽子をかぶってるうさぎさんと帽子を取ってるうさぎさんがいます。
でも、どちらもうさぎさんです。
・うさぎさんは何の仲間ですか(3の仲間)。
・鉛筆を探します。何本ありますか(3本)。何の仲間ですか(3の仲間)。
・黄色いボールを探します。何こありますか(3こ)。何の仲間(3の仲間)。
・説明します。
「うさぎは3の仲間です」(同)「鉛筆は3の仲間です」(同)
「黄色いボールは3の仲間です」(同)。
・3の仲間は他にありませんか(ノート、ねこ)。　※同様の説明
(6)・次は、たぬきさんを探します。何人いますか(4人)。
・たぬきさんは何の仲間ですか(4の仲間)。
・筆箱を探します。何こありますか(4こ)。何の仲間ですか(4の仲間)。
・給食袋を探します。何こありますか(4こ)。何の仲間(4の仲間)。
・説明します。
「たぬきは4の仲間です」(同)「筆箱は4の仲間です」(同)
「給食袋は4の仲間です」(同)。
・4の仲間は他にありませんか(☆、子供用机)。　※同様の説明
(7)・次は、きつねさんを探します。何人いますか(5人)。

・きつねさんは何の仲間ですか(5の仲間)。
・赤い紙花を探します。何こありますか(5こ)。何の仲間(5の仲間)。
・カスタネットを探します。何こありますか(5こ)。何の仲間(5の仲間)。
・説明します。
「きつねは5の仲間です」(同)「紙花は5の仲間です」(同)
「カスタネットは5の仲間です」(同)。
・5の仲間は他にありませんか(ランドセル、帽子)。　※同様の説明
(8)・ブロックケースを出します。ブロックを1こだけ出します(出す)。
・先生が「ライオンは1の仲間です」と言います。
そしたら、みんなも「ライオンは1の仲間です」と言います。
そして、ライオンの所にブロックを置きます。
・やってみます。「ライオンは1の仲間です」(同、ブロックを置く)。
※確認チェック
・「時計は1の仲間です」(同、ブロックを移動して置く)。
・時計の上に置けた人は手を挙げます。おとなりチェックもします。
※以下、オルガン、テレビ同様
(9)・次は2の仲間をやります。ブロックは何こいりますか(2こ)。出します。
・「パンダは2の仲間です」(同、ブロックを置く)。　※以下同様
(10)・次は3の仲間をやります。ブロックは何こいりますか(3こ)。出します。
・「うさぎは3の仲間です」(同、ブロックを置く)。　※以下同様
(11)・次は4の仲間をやります。ブロックは何こいりますか(4こ)。出します。
・「たぬきは4の仲間です」(同、ブロックを置く)。　※以下同様
(12)・次は5の仲間をやります。ブロックは何こいりますか(5こ)。出します。
・「きつねは5の仲間です」(同、ブロックを置く)。　※以下同様

★ポイント(10103)

(1)同じ数の仲間を、形を捨象して「□のなかま」としてグループ化する。
〇ものの数を数える。(3人、3本、3こ、3冊)
〇形を捨象する…ブロックを置くことで「同じ仲間」と認識する。
(3)→(3の仲間)
〇結果を説明する。

《おしゃべり》
(1)うさぎさんは3の仲間です。
(2)鉛筆は3の仲間です。

(2)同じ質問を繰り返すことで、1の仲間～5の仲間までを作り出す。

《Q＆A》
(1)うさぎさんは何人いますか。
(3人)
(2)鉛筆は何こありますか。
(3こ)
(3)うさぎさんも鉛筆も何の仲間ですか　(3の仲間)
(4)3の仲間は、他にありますか。
(ノート、ねこさん)

10104 ◇第4時の授業 p8, p9

(1)・6ページを開きます。
(2)・1の仲間の所を指さします。追い読みをします。 ※追い読み
「ライオンは1の仲間です」(同)「時計は1の仲間です」(同)
「オルガンは1の仲間です」(同)。
・その下にブロックの絵があります。1の仲間にブロック1こ置けました。
・その下に、赤い丸が付いているカードがあります。
これを「数図カード」と言います。「数図カード」(同同同)。
数を絵にしたカードです。
・なので、この数図カードを「1の数図カード」と言います(同同同)。
(3)・p8を開きます。
・ライオンの所に指をさします(さす)。「ライオンは1の仲間です」(同)。
・ブロックを指さします(さす)。「ブロックで1」(同)。
・数図カードを指さします(さす)。「数図で1」(同)。
・その隣は、数字カードです。「数字カード」(同同同)。
・数字カードを指さします(さす)。
・説明練習をします。指をさしながら言います。
「ライオンは1の仲間です」(同)「ブロックで1」(同)「数図で1」(同)
「数字で1」(同)。
(4)・数字カードの隣に数図カードの台紙があります。
・(ICT)ここに、「1の数図カード」を作ります。
・間違えると大変なので、赤のかわりに鉛筆で塗ります。
・最初は、このように点線をなぞります。そして点線の中を塗ります。
・鉛筆を持ちます。塗り終わった人は手を挙げます(作業)。
合格したら、おとなりチェックです。 ※確認チェック
(5)・パンダの所に指をさします。
・1の仲間と同じように、指をさしながら言います。
「パンダは2の仲間です」(同)「ブロックで2」(同)「数図で2」(同)
「数字で2」(同)。
・「2の数図カード」を作ります。塗り終わったら手を挙げます(作業)。
合格したらおとなりチェック。 ※確認チェック
※以下、5まで同様
(6)・p9を見ます。数字を書く練習をします。
・まず「1」を書きます。 ※黒板に大きく「1」をかく
・まず先生が見本を見せます。
・人差し指を出します。そして黒板の「1」を「ギュッ」となぞります。
・空書きをします。人差し指を出して!(出す)。
「ギュッ」(同)「ギュッ」(同)「ギュッ」(同)。
・自分のペースで3回、「ギュッ」と言いながらなぞります。
3回なぞり終わったら、手を戻します(ギュッ、ギュッ、ギュッ)。
(7)・黒板の別の場所に「1」を3回書きます(ギュッ、ギュッ、ギュッ)。
(8)・p9の一番上。灰色で書いてある「1」を見ます。
・ゆび書きをする所です。そこに、指で(ICT)このようになぞります。
※演示する
・自分のペースで3回、「ギュッ」と言いながらなぞります(作業)。
・3回なぞり終わったら、手を戻します。
(9)・次は鉛筆で、なぞり書きをします。 ※演示する
・鉛筆を持ちます。2つともなぞれたら、鉛筆を置いて手を挙げます。

※先生チェック（丸付け）

(10)・次は鉛筆で、写し書きをします。となりの2マスに赤い点があります。
そこから書き始めて下さいという印です。
・鉛筆を持ちます。2つとも書けたら鉛筆を置いて手を挙げます（作業）。
合格した人は、残りのマス全部に「1」を書きます（書く）。

※先生チェック（丸付け）

(11)・次は「2」を書きます。 ※黒板に大きく「2」をかく
・まず先生が見本を見せます。 ※演示する
・ここからスタート。黒板の「2」を「くるりん、横」となぞります。
・人差し指を出して！（出す）。「くるりん横」（同）「くるりん横」（同）
「くるりん横」（同）。
・自分のペースで3回、「くるりん横」と言いながら黒板をなぞります。
3回なぞり終わったら、手を戻す（くるりん横くるりん横くるりん横）。

※上記(6)「空中なぞり書き」→(7)「そら書き」→(8)「指なぞり書き」
→(9)「鉛筆なぞり書き」→(10)「写し書き」の手順で進める
※以下、「5」まで同様
※オノマトペ「3」…「くるりんくるりん」
※オノマトペ「4」…「ななめ横ギュッ」
※オノマトペ「5」…「下くるりん横」

★ポイント（10104）

(1)「数の仲間」を、具体物→半具体物→数図→数字で表現する。

《おしゃべり》≈
(1)うさぎさんは3の仲間です。
(2)ブロックで3。
(3)数図で3。
(4)数字で3です。

(2)数字(1, 2, 3, 4, 5)を書く練習をする。

○**空中なぞり書き**　（黒板の数字を人差し指でなぞる）
↓
○**空(そら)書き**　（空中に数字を書く。大きさは任意）
↓
○**指なぞり書き**　（教科書の数字を人差し指でなぞる）
↓
○**鉛筆なぞり書き**　（なぞる部分を鉛筆でなぞる）
↓
○**写し書き**　（赤い点から出発。見て書く）

(3)数字を、オノマトペのリズムを使って書く。

★オノマトペ書き順
１→ギュッ。
２→くるりんよこ。
３→くるりんくるりん。
４→ななめよこギュッ。
５→下くるりんよこ。

10105　◇第5時の授業　p10

(1)・8ページを開きます。
※事前にブロック、数図カード、数字カードを机上部に重ねて置く
(2)・追い読みをします。　※追い読み
「ライオンは1の仲間です」(同)「ブロックで1」(同)「数図で1」(同)
「数字で1」(同)「パンダは2の仲間です」(同)「ブロックで2」(同)
「数図で2」(同)「数字で2」(同)…。
(2)・「数字」のフラッシュカードをします。　※順唱、逆唱、ランダム
・「数図」のフラッシュカードをします。　※順唱、逆唱、ランダム
(3)・p10を開きます。青い自動車の絵を見ます。数えます(1, 2, 3)。
・青い自動車は何台ですか(3台)。
・青い自動車は何の仲間ですか(3の仲間)。
・ブロックで、机の上に「3」を出します(出す)。
・数図カードで「3」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・数字カードで「3」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・青枠に「3」と書きます。
・青い自動車のことを説明します。
「青い自動車は、3台あります」(同)「青い自動車は、3の仲間です」(同)
「青い自動車は、ブロックで3」(同)「青い自動車は、数図で3」(同)
「青い自動車は、数字で3です」(同)。　※追い読み→全員読み
・全部、もとにもどします。
(4)・次は横へいきます。ねこの絵を見ます。数えます(1, 2)。
・ねこは何ひきですか(2匹)。
・ねこは何の仲間ですか(2の仲間)。
・ブロックで、机の上に「2」を出します(出す)。
・数図カードで「2」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・数字カードで「2」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・青枠に「2」と書きます。
・ねこのことを説明します。
「ねこは、2匹います」(同)「ねこは、2の仲間です」(同)
「ねこは、ブロックで2」(同)「ねこは、数図で2」(同)
「ねこは、数字で2です」(同)。　※追い読み→全員読み
・全部、もとにもどします。
(5)・次は鉛筆の絵を見ます。数えます(1, 2, 3, 4, 5)。
・鉛筆は何本ですか(5本)。
・鉛筆は何の仲間ですか(5の仲間)。
・ブロックで、机の上に「5」を出します(出す)。
・数図カードで「5」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・数字カードで「5」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・青枠に「5」と書きます。
・鉛筆のことを説明します。
「鉛筆は、5本あります」(同)「鉛筆は、5の仲間です」(同)

「鉛筆は、ブロックで5」(同)「鉛筆は、数図で5」(同)
「鉛筆は、数字で5です」(同)。　※追い読み→全員読み
・全部、もとにもどします。　※以下、チューリップまで同様
(6)・スキル4番を開きます。　※スキル初期のシステムで進める

★ポイント(10105)

(1)「数の仲間」を、具体物→半具体物→数図→数字で表現する。
○具体物(絵)を数える。
○具体物の量を言う。
○具体物の量の仲間を言う。
○半具体物(ブロック)を出す。　※単位の捨象
○数図カードを出す。
○数字カードを出す。
○説明する。

《おしゃべり》
(1)青い自動車は、3台あります。
(2)青い自動車は、3の仲間です。
(3)青い自動車は、ブロックで3。
(4)青い自動車は、数図で3。
(5)青い自動車は、数字で3です。

(2)百玉そろばん等で数を数えるときの許容
○「上り数唱(1～10)」は,正しく言わせる。
いち,に,さん,し,ご,ろく,しち,はち,く,じゅう
↓　↓　↓
よん×　なな×　きゅう×

○「下り数唱(10～0)」は,0以外はこだわらない。
れい○,ゼロ×　※ゼロは英語です。

○二位数以上の数唱は,日本語の習慣なのでこだわらない。
45(よんじゅうご)　97(きゅうじゅうなな)

10106　◇第6時の授業　p11

(1)・10ページを開きます。
※事前にブロック、数図カード、数字カードを机上部に重ねて置く
(2)・復習の追い読みをします。　※追い読み
「青い自動車は、3台あります」(同)「青い自動車は、3の仲間です」(同)
「青い自動車は、ブロックで3」(同)「青い自動車は、数図で3」(同)
「青い自動車は、数字で3です」(同)。
(3)・p11を開きます。
・「数をさがそう」と書いてあります。みんなで読みます(読む)。
・セロテープが写っている写真を見ます。数えます(1, 2)。
・セロテープは何台ですか(2台)。
・セロテープは何の仲間ですか(2の仲間)。
・ブロックで、机の上に「2」を出します(出す)。
・数図カードで「2」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・数字カードで「2」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・セロテープのことを説明します。
「セロテープは、2台あります」(同)「セロテープは、2の仲間です」(同)
「セロテープは、ブロックで3」(同)「セロテープは、数図で3」(同)
「セロテープは、数字で3です」(同)。　※追い読み→全員読み
・全部、もとにもどします。
(4)・手を洗う流しの写真を見ます。蛇口を数えます(1, 2, 3, 4)。
・蛇口は何こですか(4こ)。
・蛇口は何の仲間ですか(4の仲間)。
・ブロックで、机の上に「4」を出します(出す)。
・数図カードで「4」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・数字カードで「4」を出して先生に見せます(カードを見せる)。
机の上に置きます。
・蛇口のことを説明します。
「蛇口は、4こあります」(同)「蛇口は、4の仲間です」(同)
「蛇口は、ブロックで4」(同)「蛇口は、数図で4」(同)
「蛇口は、数字で4です」(同)。　※追い読み→全員読み
・全部、もとにもどします。
※緑の石けん、ほうき、ふでばこも同様
(5)・チョークの絵を見ます。
・赤いチョークは何本ですか(3本)。
・黄色いチョークは何本ですか(2本)。
・「チョークは」何本ですか(5本)。
・「チョークは」と言われたら、色に関係なくチョークを数えます。
※黒板に赤丸1こと青丸4こをかく
(6)・先生問題です。先生が、黒板に〇をかきました。
・赤〇は何こですか(1こ)。
・青〇は何こですか(4こ)。
・〇は何こですか(5こ)。
・「〇は」と言われたら、色に関係なく〇の数を数えます。
(7)・その下、「5ならべよう」と書いてあります。みんなで読みます(読む)。

・その隣。あみさんの作ったブロックを見ます。
何こありますか(5こ)。十字みたいな形ですね。
・その隣。はるとさんの作ったブロックを見ます。
何こありますか(5こ)。おもしろい形ですね。
・このように、ブロックを5こ使って、いろいろな形を作ります。
(8)・まず、あみさんのように並べます。
・ブロックを5こ出します。
・1つのマス目にブロックを1こ入れます。並べたら先生チェック。
※チェック
・合格したら、はるとさんのように並べます。並べたら先生チェック。
※チェック
・合格したら、自分の好きな並べ方をします。
いろいろな並べ方をして、できたらおとなりさんに見せます。
(9)・スキル5番を開きます。できたら先生チェック。

★ポイント(10106)

(1)「数の仲間」を、具体物→半具体物→数図→数字で表現する。
○具体物(絵)を数える。
○具体物の量を言う。
○具体物の量の仲間を言う。
○半具体物(ブロック)を出す。　※単位の捨象
○数図カードを出す。
○数字カードを出す。
○説明する。

《おしゃべり》
(1)セロテープは、2台あります。
(2)セロテープは、2の仲間です。
(3)セロテープは、ブロックで2。
(4)セロテープは、数図で2。
(5)セロテープは、数字で2です。

(2)条件を捨象して、「上位概念」で数える。

条件付きのチョーク

条件なしのチョーク

《Q&A》
(1)赤チョークは何本ですか(3本)
(2)黄チョークは何本ですか(2本)
(3)チョークは何本ですか　(5本)

10107　◇第7時の授業　p12, p13

(1)・12ページを開きます。
(2)・追い読みをします。　※追い読み
「5は」(同)「いくつといくつ」(同)「数字で5」(同)「ブロックで5」(同)
「数図で5」(同)「おはじきを」(同)「5ことります」(同)。
(3)・右側の絵を見ます。薄青色の袋があります。指さします。
・袋の中には青いおはじき4こと、黄色いおはじき4こ入っています。
数えて確かめます(作業)。
・その隣の絵を見ます。女の子が袋の中からおはじきを取っています。
・袋の中を見ないで、5ことります。
・下にいるみんなも、同じように5ことりました。
・一番左側の男の子がしょうごさん、次はみささん、次はせいらさん、
次はけんとさんです。
(4)・まず、しょうごさんの取った5このおはじきを見ます。
・しょうごさんの取ったおはじきを指さします。
・それを1列に並べたのが(ICT)これです。指さします。
・5このおはじきは、「青、黄、青、黄、青」と並びました。
・これをわかりやすく、「青、青、青、黄、黄」に並べ替えました。
これです。指さします。
・しょうごさんの青いおはじきは何こですか(3こ)。
・しょうごさんの黄色いおはじきは何こですか(2こ)。
(5)・下の所に、しょうごさんが取ったおはじきの絵があります。
指さします(さす)。
・そこに、青いおはじきが□こ、黄色いおはじきが□ことあります。
・青いおはじきは3こなので、ここに「3」と書きます(作業)。
・黄色いおはじきは2こなので、ここに「2」と書きます(作業)。
・次のように言います。「5は、3と2」(同同同)。
(6)・その下の所には、みささんが取ったおはじきの絵があります。
指さします(さす)。
・みささんは、青いおはじきを何こ取っていますか(4こ)。
・みささんは、黄色いおはじきを何こ取っていますか(1こ)。
・□に書きます。書き終わった人は、鉛筆を置いて立ちます。
・次のように言います。「5は、4と1」(同同同)。
・立って1回言います。座って2回3回と言います。
※せいら、けんとも同様
(7)・次のページの「5は、3と2」の所を見ます。指さします。
しょうごさんの分け方でした。みんなで言います。「5は、3と2」(同)。
★マス目の一番上に「5」、その下に「3の実」と「2の実」がついています。
・この図が、「5は3と2に分けられます」という図です。
・「さくらんぼ図」と言います(同同同)。　※さくらんぼの絵を板書
さくらんぼみたいに、2つに分かれているからです。
★「5のさくらんぼ図」には、3の実と2の実ができます。
・その下の、赤丸白丸を見ます。
・丸は全部で(5こ)。そのうち赤丸は(3こ)。白丸は(2こ)。
・なので「5は、3と2」です。
★丸を見ながら言います。「5は、3と2」(同同同)。
(8)・そのとなりの「5のさくらんぼ図」を見ます。
・まず赤白の丸の所を見ます。丸は全部で5こ。

そのうち赤丸は何こですか(4こ)。白丸は何こありますか(1こ)。
・さくらんぼのこちら側の□に書きます(1)。
・「5のさくらんぼ図」には、4の実と1の実ができます。
・丸を見ながら言います。「5は、4と1」(同同同)。
・みささんの分け方ですね。
(9)・その下、こちら側の「5のさくらんぼ図」を見ます。
・まず、さくらんぼ図のこちら側が「2の実」です。
なので、赤丸を2こ分塗っています。
・そうすると、白丸は何こになりましたか(3こ)。□に書きます(3)。
・こちらには「3の実」ができました。
・丸を見ながら言います。「5は、2と3」(同同同)。
・せいらさんの分け方ですね。
(10)・その隣の「5のさくらんぼ図」を見ます。
・□の場所が反対になりました。
・さくらんぼのこちら側が「4の実」です。
なので、赤丸をこちら側から4こ分塗っています。
・そうすると、白丸は何こになりましたか(1こ)。□に書きます(1)。
・こちらには「1の実」ができました。
・丸を見ながら言います。「5は、1と4」(同同同)。
・けんとさんの分け方ですね。
(11)・一番下の段、こちらの「5のさくらんぼ図」を見ます。
・今度は、5つの丸に赤丸が塗られていません。自分で塗ります。
・赤丸を何こぬればいいですか(1こ)。
さくらんぼ図のここに「1の実」があるから1こぬるのですね。
・丸からはみ出さないように赤でぬります(作業)。
・そうすると、白丸は何こになりましたか(4こ)。□に書きます(4)。
・こちらには「4の実」ができました。
・丸を見ながら言います。「5は、1と4」(同同同)。
(12)・その隣の「5のさくらんぼ図」を見ます。
・これも5つの丸に赤丸が塗られていません。自分で塗ります。
・赤丸を何こぬればいいですか(3こ)。
さくらんぼのここに「3の実」があるから、3こ塗るのですね。
・なので、赤丸をこちら側から3こ分塗ります(作業)。
・そうすると、白丸は何こになりましたか(2こ)。□に書きます(2)。
・こちらには「2の実」ができました。
・丸を見ながら言います。「5は、2と3」(同同同)。
(13)・スキル6番を開きます。できたら先生チェック。

★ポイント(10107)

(1)「5」の分解。「5のさくらんぼ図」をかけるようにする。
○「さくらんぼ図」の上側の数が名称になる「ａのさくらんぼ図」
○「さくらんぼ図」の2つの下側を「実」とする。「ｂの実」「ｃの実」
○5この白丸に、一方の赤丸を塗ることで「□の実」がわかる。
○「□の実」が左側にある時は、●は右側から塗る。
○「分解」の説明できるようにする。
「5は、ｂとｃ」

10108 ◇第8時の授業 p14, p15

(1)・14ページを開きます。
(2)・上の字を読みます。 ※追い読み→1人読み
「同じ」(同)「数の」(同)「仲間を」(同)「さがそう」(同)。
・ここは、動物たちの学校の校庭ですね。
・校庭にはたくさんの遊ぶものがあります。
・鉄棒で遊んでいる人がいます。指さします(さす)。おとなりチェック。
※砂場、なわとび、サッカー場、一輪車も同様
・遊んでいる人はいませんが、タイヤ跳びがあります。指さします。
※花壇、木も同様
(3)・ねこさんを探します。どこにいますか(鉄棒となわとび)。
・ねこさんはみんなで何人いますか(6人)。ねこさんは6の仲間です。
・黄色シャベルを探します。何こありますか(6こ)。
・シャベルは、何の仲間ですか(6の仲間)。
・説明します。
「ねこさんは6の仲間です」(同)「シャベルは6の仲間です」(同)。
(4)・ぶたさんを探します。どこにいますか(砂場)。
・ぶたさんはみんなで何人いますか(7人)。ぶたさんは7の仲間です。
・7の仲間がもう一つあります。どれかを探します(緑のバケツ)。
みんなで数えます(7こ)。緑のバケツも7の仲間でした。
・説明します。
「ぶたさんは7の仲間です」(同)「バケツは7の仲間です」(同)。
(5)・ねずみさんを探します。どこにいますか(サッカー場)。
・ねずみさんはみんなで何人いますか(8人)。ねずみさんは8の仲間です。
・8の仲間がもう一つあります。どれかを探します(ピンクの花)。
みんなで数えます(8こ)。ピンクの花も8の仲間でした。
・説明します。
「ねずみさんは8の仲間です」(同)「ピンクの花は8の仲間です」(同)。
(6)・うさぎさんを探します。どこにいますか(なわとびと一輪車)。
・うさぎさんはみんなで何人いますか(9人)。うさぎさんは9の仲間です。
・9の仲間がもう一つあります。どれかを探します(赤いタイヤ)。
みんなで数えます(9こ)。赤いタイヤも9の仲間でした。
・説明します。
「うさぎさんは9の仲間です」(同)「赤いタイヤは9の仲間です」(同)。
(7)・りすさんを探します。どこにいますか(サッカー場)。
・りすさんはみんなで何人いますか(10人)。りすさんは10の仲間です。
・10の仲間がもう一つあります。どれかを探します(木)。
みんなで数えます(10こ)。木も10の仲間でした。
・説明します。
「りすさんは10の仲間です」(同)「木は10の仲間です」(同)。
(8)・ブロックを1こだけ出します(作業)。
・「1の仲間」はありませんか(サッカーボール)。
・先生が「サッカーボールは1の仲間です」と言います。
・そしたら、みんなも「サッカーボールは1の仲間です」と言います。
・そして、ボールの所にブロックを置きます。
・やってみます。「ボールは1の仲間です」(同、ブロックを置く)。
※確認チェック
(9)・次は2の仲間をやります。ブロックは何こいりますか(2こ)。出します。

・「2の仲間」はありませんか(サッカーゴール)。
・「サッカーゴールは2の仲間です」(同、ブロックを置く)。
※3の仲間…鉄棒　4の仲間…チョウチョ　5の仲間…一輪車　同様
(10)・次は6の仲間をやります。ブロックは何こいりますか(6こ)。出します。
・「6の仲間」は何でしたか(ねことシャベル)。
・「ねこは6の仲間です」(同、ブロックを置く)。おとなりチェック。
・6このブロックを集めて、1列に並べます(作業)。
(11)・「6の仲間」の所のブロックを見ます。
みんなの並べ方と、少しだけ違う所があります。何ですか。
(5と6の間が少しだけ開いている)。
・同じように並べます(作業)。　※百玉そろばんを出す
・百玉そろばんも、「5」までは赤でしたが、「6」からは黄色です。
・分けたブロックを、このように2段目に移します。　※演示
・これは、何に似ていますか(数図)。
・ブロックを並べるときは、このように並べてもいいです。
・「シャベルは6の仲間です」(同、ブロックを置く)。おとなりチェック。
※7の仲間～10の仲間も同様

★ポイント(10108)

(1)同じ数の仲間を、形を捨象して「□のなかま」としてグループ化する。
〇ものの数を数える。(6人、6こ)
〇形を捨象する…ブロックを置くことで「同じ仲間」と認識する。
(6)→(6の仲間)
〇結果を説明する。

《おしゃべり》≈
(1)ねこさんは6の仲間です。
(2)黄色いシャベルは6の仲間です。

(2)同じ質問を繰り返すことで、6の仲間～10の仲間までを作り出す。

《Q＆A》≈
(1)ねこさんは何人いますか。
(6人)
(2)シャベルは何こありますか。
(6こ)
(3)ねこさんもシャベルも何の仲間ですか　(6の仲間)

(3)1列に並べたブロックを、2列にする。
〇数図と似ている。
〇数えやすい。

10109　◇第9時の授業　p16, p17

(1)・16ページを開きます。
(2)・上の字を読みます。　※追い読み→1人読み
「数を」(同)「かこう」(同)。
・ねこの所に指をさします(さす)。「ねこは6の仲間です」(同)。
・ブロックを指さします(さす)。「ブロックで6」(同)。
・数図カードを指さします(さす)。「数図で6」(同)。
・数字カードを指さします(さす)。「数字で6」(同)。
・説明練習をします。指をさしながら言います。
「ねこは6の仲間です」(同)「ブロックで6」(同)「数図で6」(同)
「数字で6」(同)。　※全員読み
(3)・数字カードの隣に数図カードの台紙があります。
・(ICT)ここに、この数図カードと同じ場所に色を塗ります。
・数図カードの上の段は5なので全部塗ります。
・そして下の段は1こ塗ります。これで6の数図カードができます。
・間違えると大変なので、鉛筆で塗ります。
・点線をなぞってから点線の中を塗るのでしたね。
・鉛筆を持ちます(持つ)。塗ります。塗り終わったら手を挙げます。
合格したら、おとなりチェックです。　※確認チェック
(4)・ぶたさんの所に指をさします(さす)。
・6の仲間と同じように、指をさしながら言います。
「ぶたさんは7の仲間です」(同)「ブロックで7」(同)「数図で7」(同)
「数字で7」(同)。　※全員読み
・赤い数図カードをよく見て、鉛筆で塗ります。塗り終わったら手を
挙げます。合格したらおとなりチェック。　※確認チェック
※以下、10まで同様
(5)・p17を見ます。数字を書く練習をします。
・まず「6」を書きます。　※黒板に大きく「6」をかく
・「空中空書き」をします。まず先生が見本を見せます。
・人差し指を出す。そして黒板の「6」を「くるりんペタ」となぞります。
・人差し指を出して!(出す)。「くるりんペタ」(同同同)。
・自分のペースで3回、「くるりんペタ」と言いながらなぞります。
3回なぞり終わったら、手を戻します。
・黒板の別の場所に「6」を3回書きます(くるりんペタ)。
(6)・p9の一番上。灰色で書いてある「6」を見ます。
・「指書き」をします。指でなぞります。　※演示する
「ペタ」で、6のここにつけるのです。
・自分のペースで3回、「くるりんペタ」と言いながらなぞります。
3回なぞり終わったら、手を戻します。
(7)・「なぞり書き」をします。鉛筆で、2つの灰色の「6」をなぞります。
※演示する
・鉛筆を持ちます。2つともなぞれたら、鉛筆を置いて手を挙げます。
※先生チェック(丸付け)
(8)・「写し書き」をします。となりの2マスに赤い点があります。
そこからスタートして下さいという印です。
・鉛筆を持ちます。2つともなぞれたら、鉛筆を置いて手を挙げます。
合格した人は、残りのマス全部に「6」を書きます(書く)。
※先生チェック(丸付け)

(9)・次は「7」を書きます。　※黒板に大きく「2」をかく
・まず先生が見本を見せます。
・ここからスタート。黒板の「7」を「下横斜め」となぞります。
・人差し指を出して!(出す)。「下横斜め」(同同同)。
・自分のペースで3回、「下横斜め」と言いながらなぞります。
3回なぞり終わったら、手を戻す。　※以下、「10」まで同様
※オノマトペ「 8」…「くるりんくるりんペタ」
※オノマトペ「 9」…「くるりんペタ斜め」
※オノマトペ「10」…「1かいて、近づいて離れる」
(10)・スキル7番を開きます。できたら先生チェック。

★ポイント(10109)

(1)「数の仲間」を、具体物→半具体物→数図→数字で表現する。

《おしゃべり》≈
(1)ねこさんは3の仲間です。
(2)ブロックで6。
(3)数図で6。
(4)数字で6です。

(2)数字(6, 7, 8, 9, 10)を書く練習をする。
○**空中なぞり書き**　(黒板の数字を人差し指でなぞる)
↓
○**空(そら)書き**　(空中に数字を書く。大きさは任意)
↓
○**指なぞり書き**　(教科書の数字を人差し指でなぞる)
↓
○**鉛筆なぞり書き**　(なぞる部分を鉛筆でなぞる)
↓
○**写し書き**　(赤い点から出発。見て書く)

(3)数字を、オノマトペのリズムを使って書く。

★オノマトペ書き順
6→くるりんペタ。
7→下よこななめ。
8→くるりんくるりんペタ。
9→くるりんペタななめ。
10→1かいて，近づいて離れる

10110　◇第10時の授業　p18, p19

(1)・18ページを開きます。　※黒板に数字カードと数図カードを貼る
(2)・追い読みをします。　※追い読み
「6は」(同)「いくつといくつ」(同)「数字で6」(同)「数図で6」(同)
「ブロックで6」(同)「ブロックが」(同)「6こあります」(同)
「かくしている数を」(同)「あてましょう」(同)。
(3)・上のブロックを見ます。ブロックは何こありますか(6こ)。
・5と6の間が少し空いていますね。
★これだと、1, 2, 3, 4, 5, 6と数えなくても、5, 6ですぐに数えられます。
・数図は、上の段の5こと下の段1こになっています。
ブロックで分けたのと似ていますね。
(4)・右側の女の子の机の上を見ます。
・6こあるかどうか確かめます(6こある)。
・おとなりの男の子の机の上を見ます。
男の子の机の上にも6こあったのですが、男の子は何こか隠しました。
・見えているブロックは何こですか(3こ)。
・男の子は何こ隠したかを当てるのが今日の勉強です。
(5)・机の上にブロックを6こ出します(作業)。
・見えているブロックが3こになるように、手で隠します。
・手の中には何こありますか(3こ)。
・女の子が考えている吹き出しを見ます。「6のさくらんぼ図」です。
・一番上は6。最初は6こあったということです。
・その下に「3の実」と□の実があります。
・□は、隠したブロックです。何こでしたか(3こ)。小さく「3」と書く。
・このように言います。「6は、3と3」(同同同)。
(6)・下の絵に移ります。ブロックを隠している最初の絵を見ます。
・見えているブロックは何こですか(5こ)。
・だからここに「5」と書いてあるのですね。
・さて、隠しているブロックの数が□に入ります。何こか調べます。
・見えているブロックが5こになるように、手で隠します。
・手の中には何こありますか(1こ)。□に1と書きます。
・このように言います。数字カードを指さしながら言います。
「6は、5と1」(同同同)。
(7)・次の絵を見ます。
・見えているブロックは何こですか(3こ)。こちらの□に3と書きます。
・見えているブロックが3こになるように、手で隠します。
・手の中には何こありますか(3こ)。□に3と書きます。
・このように言います。数字カードを指さしながら言います。
「6は、3と3」(同同同)。　※残りの3つの絵も同様
(8)・ますりんが言っています「いくつといくつで6になるかな」。
・みんなで言います(同)。
・次のように言います。　※5のさくらんぼを板書
・数字カードを指しながら「5と1で6」(同同同)。
★さくらんぼ図の「2つの実」をあわせると、上の数になります。
※指さしと言葉を対応させる
・みんなで言います。
「5と1で6」(同)「3と3で6」(同)「4と2で6」(同)「1と5で6」(同)
「2と4で6」(同)。

★この言い方を「あわせる言い方」と呼ぶことにします(同)。
★これまでの言い方は「分ける言い方」と呼ぶことにします(同)。
・全員起立。自分で指さしながら言います。
立って1回。終わったら座って2回3回とやります。
※可能であれば、さくらんぼの時は「20玉そろばん」を使う
1段目の6と4の間をクリップで止め、6だけを使う
(9)・下のさくらんぼ図を見ます。2つの「6のさくらんぼ図」があります。
・こちら(左)側。「6は、5と□」です。
・ブロックを6こ並べます。 ※演示
・さくらんぼ図に「5の実」があります。
なので、5こ数えて脇に寄せます。 ※演示
・残ったブロックをひっくり返して白色にします。 ※演示
・白いブロックの数を数えて、「□の実」に書きます。
(9)・同じようにやってみます。
・机の上にブロック6こ並べます(①並べる)。
・5こを数えて脇に寄せます(②左寄せ)。
・残っている1このブロックをひっくり返します(③白にする)。
・白いブロックは何こですか(1こ)。「□の実」に書きます(④1と書く)。
・分ける言い方で言います。「6は、5と1」(同同同)。
・あわせる言い方で言います。「5と1で6」(同同同)。
(10)・今度はこちら(右)側。「6は□と1」の図があります。
・ブロック6こ並べます(①並べる)。
・「5の実」はこちら(右)側に書いてあります。
5こを数えたらこちら(右)脇に寄せます(②右寄せ)。
・残っている1このブロックをひっくり返します(③白にする)。
・白いブロックは何こですか(1こ)。「□の実」に書きます(④1と書く)。
・分ける言い方で言います。「6は、1と5」(同同同)。
・あわせる言い方で言います。「1と5で6」(同同同)。
(11)・次のページ。さくらんぼがたくさんあります。
・ブロックを使って、□に数字を入れます(作業)。
(12)・答え合わせをします。
・Aさん、ここの答えを言います(6は、2と4)。
・当たった人は赤丸をつけます。 ※以下「6は、3と3」まで同様
・Bさん、ここの答えを言います(5と1で6)。
・当たった人は赤丸をつけます。 ※「3と3で6」も同様
(13)・帽子の絵を見ます。
・赤い帽子は何こですか(3こ)。白い帽子は何こですか(3こ)。
・帽子は何こですか(6こ)。□に「6」と書きます。
・ますりんのように、あわせる言い方で言います(3と3で6)。
・説明練習をします。
「赤い帽子は3こです」(同)「白い帽子は3こです」(同)
「帽子は3と3で6こです」(同)。 ※うさぎ以外同様
(芝生にいるアヒルは2羽です。泳いでいるアヒルは3羽です。
アヒルは2と3で5羽です)。
(ケースに入っている鉛筆は5本です。出ている鉛筆は1本です。
鉛筆は5と1で6本です)。
(上の段のてんとう虫は2匹です。下の段のてんとう虫は4匹です。
てんとう虫は2と4で6匹です)。
(黄色い紙飛行機は2こです。青い紙飛行機は5こです。
紙飛行機は2と5で7こです)。

(14)・うさぎの絵を見ます。
・黒いうさぎは何匹ですか(3匹)。白いうさぎは何匹ですか(3匹)。
・うさぎは何匹ですか(6匹)。書きます。
・あわせる言い方で言います(3と3で6)。
(黒いうさぎは3匹です。白いうさぎは3匹です。
うさぎは3と3で6匹です)。
・こんな言い方もあります。
・親うさぎは何匹ですか(2匹)。子うさぎは何匹ですか(4匹)。
・うさぎは何匹ですか(6匹)。
・あわせる言い方で言います(2と4で6)。
(親うさぎは2匹です。子うさぎは4匹です。
うさぎは2と4で6匹です)。
・分け方は違いますが、どちらの分け方でも6匹です。
(15)・スキル8番の上だけをやります。できたら先生チェック。

★ポイント(10110)

(1)ブロックを使って「6」を分解する。

■ ■ ■ ■ ■ ■
↓
□

○「わける言い方」で説明

《手　順》
(1)全体の数6のブロックを黄色にして並べる。
(2)わかっている数5を寄せる。
(3)残っているブロックを白色。
(4)□に数字を書く。　(1)
(5)分解の説明。　(6は、5と1)

(2)ブロックを使って「6」に合成する。

■■■■■→←■

○「あわせる言い方」で説明

《手　順》
(1)左側の数5を左側へ置く。
(2)右側の数1を右側へ置く。
(3)両手を使ってガチャン。
(4)□に数字を書く。　(6)
(4)合成の説明。　(5と1で6)

(3)条件を捨象して合成する。

条件付きの帽子

条件なしの帽子

《Q＆A》
(1)赤い帽子は何こですか　(3こ)
(2)白い帽子は何こですか　(3こ)
(3)帽子は何こですか　(6こ)

(4)様々な条件を作る
○同質(てんとう虫)…上下で分ける

《おしゃべり》
(1)上のてんとう虫は2ひきです。
(2)下のてんとう虫は4ひきです。
(3)てんとう虫は、2と4で6ひきです。

○同質異場所(鉛筆、あひる)…明確な位置で分ける

《おしゃべり》
(1)入れ物の中の鉛筆は5本です。
(2)入れ物の外の鉛筆は1本です。
(3)鉛筆は、5と1で6本です。

○色違い(帽子、紙飛行機)…色で分ける

《おしゃべり》
(1)黄色い紙飛行機は2こです。
(2)青い紙飛行機は5こです。
(3)紙飛行機は、2と5で7こです。

○2種類の条件(うさぎ)…色で分ける、大きさで分ける

どちらでも言えるようにする。

《おしゃべり》
(1)黒いうさぎは3ひきです。
(2)白いうさぎは3ひきです。
(3)うさぎは、3と3で6ひきです。

(1)親うさぎは2ひきです。
(2)子うさぎは4ひきです。
(3)うさぎは、2と4で6ひきです。

10111　◇第11時の授業　p20, p21

(1)・20ページを開きます。　※黒板に数字カードと数図カードを貼る
(2)・追い読みをします。　※追い読み
「7は」(同)「いくつといくつ」(同)「数字で7」(同)「数図で7」(同)
「ブロックで7」(同)「ブロックが」(同)「7こあります」(同)
「かくしている数を」(同)「あてましょう」(同)。
(3)・上のブロックを見ます。ブロックは何こありますか(7こ)。
・5と6の間が少し空いていますね。
・どのように数えましたか(5, 6, 7)。
(4)・右側の男の子の机の上を見ます。ブロックが7こあります。
・おとなりの女の子の机の上を見ます。女の子の机の上にも7こあったのですが、女の子は何こか隠しました。
・見えているブロックは何こですか(4こ)。
・女の子は何こ隠したかを当てるのが今日の勉強です。
(5)・机の上にブロックを7こ出します。
・見えているブロックが4こになるように、手で隠します。
・手の中には何こありますか(3こ)。
・男の子が考えている吹き出しを見ます。「7のさくらんぼ図」です。
・図の上は7。最初は7こあったということです。
・その下の「4の実」は、見えているブロックです。
・「□の実」は隠したブロックです。何こでしたか(3こ)。
小さく3と書きます。
・分ける言い方で言います。「7は、4と3」(同同同)。
(6)・下に、机の上でブロックを隠している絵がたくさんあります。
・最初の絵を見ます。見えているブロックは何こですか(5こ)。
・だからここに「5」と書いてあるのですね。
・さて、隠しているブロックの数が□に入ります。
・見えているブロックが5こになるように、手で隠します(作業)。
・手の中には何こありますか(2こ)。□に2と書きます。
・分ける言い方で言います。「7は、5と2」(同同同)。
(7)・次の絵を見ます。
・見えているブロックは何こですか(4こ)。こちらの□に4と書きます。
・見えているブロックが4こになるように、手で隠します(作業)。
・手の中には何こありますか(3こ)。□に3と書きます。
・分ける言い方で言います。「7は、4と3」(同同同)。
※残りの4つの絵も同様
(8)・あわせる言い方でも言えるようにします。
・数字カードを指しながら言います。「5と2で7」。
・みんなで言います。
「5と2で7」(同)「4と3で7」(同)「2と5で7」(同)「1と6で7」(同)
「6と1で7」(同)「3と4で7」(同)。
・全員起立。自分で指さしながら言います。
立って1回。終わったら座って2回3回とやります。
※可能であれば、さくらんぼの時は「20玉そろばん」を使う
1段目の7と3の間をクリップで止め、7だけを使う
(9)・下に、「7のさくらんぼ図」が2つあります。
・こちら(左)側。「7は、5と□」ですね。
・ブロックを7こ並べます。　※演示

・「5の実」があるので、5こ数えて左脇に寄せます。　※演示
・残ったブロックをひっくり返して白色にします。　※演示
・白いブロックの数を数えて、「□の実」に書きます。
・同じようにやってみます。
・机の上にブロック7こ並べます(①並べる)。
・5こを数えて脇に寄せます(②左寄せ)。
・残っている2このブロックをひっくり返します(③白にする)。
・白いブロックは何こですか(2こ)。□に書きます(④2と書く)。
(10)・今度はこちら(右)側。「7は□と5」ですね。
・ブロック7こ並べます(①並べる)。
・「5の実」はこちら(右)側に書いてあります。
5こを数えたらこちら(右)脇に寄せます(②右寄せ)。
・残っている2このブロックをひっくり返します(③白にする)。
・白いブロックは何こですか(2こ)。「□の実」に書きます(④2と書く)。
(11)・次のページ。「7のさくらんぼ図」がたくさんあります。
・ブロックを使って、「□の実」に数字を入れます(作業)。
(12)・答え合わせをします。
・Ａさん、ここの答えを言います(7は、6と1)。
・当たった人は赤丸をつけます。　※以下同様
(13)・風船の絵を見ます。
・赤い風船は何こですか(2こ)。青い風船は何こですか(5こ)。
・風船は何こですか(7こ)。□に「7」と書きます。
・りくさんが言っているように、あわせる言い方で言います(2と5で7)。
・説明練習をします。
「赤い風船は2こです」(同)「青い風船は5こです」(同)
「風船は2と5で7こです」(同)。
(赤い風船は2こです。青い風船は5こです。風船は2と5で7こです)。
※かさ以外同様
(14)・かさの絵を見ます。
・緑色のかさは何本ですか(3本)。赤いかさは何本ですか(4本)。
・かさは何本ですか(7本)。書きます。
・あわせる言い方で言います(3と4で7)。
・説明します。
(緑色のかさは3本です。赤いかさは4本です。かさは3と4で7本です)。
・こんな言い方もあります。
・開いているかさは何本ですか(2本)。閉じたかさは何本ですか(5本)。
・かさは何本ですか(7本)。
・あわせる言い方で言います(2と5で7)。
・説明します。
(開いているかさは2本です。閉じているかさは5本です。
かさは2と5で7本です)。
・分け方は違いますが、どちらの分け方でも7本です。
(15)・スキル8番の下をやります。できたら先生チェック。

★ポイント(10111)

(1)ブロックを使って「7」を分解する。

(2)ブロックを使って「7」に合成する。

(3)条件を捨象して合成する。

(4)様々な条件を作る

〇同質異場所(クッキー、ドーナツ)…明確な位置で分ける

《おしゃべり》
(1)四角い皿のクッキーは6こです。
(2)丸い皿のクッキーは1こです。
(3)クッキーは、6と1で7こです。

〇色違い(風船、コップ、犬)…色で分ける

《おしゃべり》
(1)赤い風船は2こです。
(2)青い風船は5こです。
(3)風船は、2と5で7こです。

〇2種類の条件(かさ)…色で分ける、大きさで分ける

どちらでも言えるようにする。

《おしゃべり》
(1)緑色のかさは3本です。
(2)赤色のかさは4本です。
(3)かさは、3と4で7本です。

(1)開いているかさは2本です。
(2)閉じているかさは5本です。
(3)かさは、2と5で7本です。

10112　◇第12時の授業　p22, p23

(1)・22ページを開きます。　※黒板に数字カードと数図カードを貼る
(2)・追い読みをします。　※追い読み
「8は」(同)「いくつといくつ」(同)「数字で8」(同)「数図で8」(同)
「ブロックで8」(同)「2まいで」(同)「8にしましょう」(同)。
(3)・上のブロックを見ます。ブロックは何こありますか(8こ)。
・5と6の間が少し空いていますね。
・どのように数えましたか(5, 6, 7, 8)。
(4)・右側の絵を見ます。男の子と女の子がゲームをしています。
・おとなりどうし、机をくっつけています。
・「2枚で8にするゲーム」です。　※板書「2まいで8げえむ」
・男の子と女の子の机の上に、カードが裏返しになって並べてあります。
・まず男の子が、カードを2枚取りました。
・何と何をとりましたか(5と3)。
・男の子は、5と3で8になるかどうか、ブロックで確かめています。
・5と3で8になりましたか(なった)。
・男の子が言っています。「5と3で8」。
・なので、男の子は2枚のカードをもらえます。
(5)・次は、女の子の番です。1枚目をとりました。「2」です。
・女の子は2枚目をとりますが、何をとればいいですか(6のカード)。
・女の子が考えている吹き出しを見ます。「8のさくらんぼ図」です。
・「□の実」はこれからもらうカードです。そこに小さく「6」と書きます。
・みんなで、「8のさくらんぼ図」を読みます。「8は、2と6」(同)。
・女の子が「6」のカードをとったら、「2」と「6」の2枚ともももらえます。
・「6」ではなかったら、もらえませんでした。もとの所にもどします。
・今日は、こういうゲームをします。
(6)・ゲームをする前に、何と何をあわせたら8になるかを調べます。
・ブロックを8こを、机の上に並べます(作業)。
・その下の「5と□」を見ます。
・「5」がわかっているので、5こ数えて脇に寄せます。　※演示
・残ったブロックをひっくり返して白色にします。　※演示
・白いブロックはいくつありますか(3)。□に書きます。
(7)・次の「2と□」を見ます。
「2」がわかっているので、2こ数えて脇に寄せます。
・残ったブロックをひっくり返して白色にします。
・白いブロックはいくつありますか(6)。□に書きます。
・残りの□も同じようにして調べます(作業)。
(8)・答え合わせをします。
・Ａさん、「7と□」の答えを言って下さい(7と1で8)。
みんなで言います(同)。　※以下同様
※可能であれば、さくらんぼの時は「20玉そろばん」を使う
1段目の8と2の間をクリップで止め、8だけを使う
(9)・下に、「8のさくらんぼ図」が3つあります。
・これまでと同じようにして、「□の実」に数を入れます(作業)。
・答え合わせをします。
・Ｂさん、「5と□」の答えを言って下さい(5と3で8)。
・別の言い方もありましたね(8は、5と3)。
・みんなで言います。「5と3で8」(同)「8は、5と3」(同)。　※以下同様

(10)・次のページにも、「8のさくらんぼ図」が6つあります。
・同じようにして、「□の実」に数を入れます(作業)。
・答え合わせをします。
・Ｃさん、「2と□」の答えを言って下さい(2と6で8)。
・別の言い方もありましたね(8は、2と6)。
・みんなで言います。「2と6で8」(同)「8は、2と6」(同)。　※以下同様
(11)・では、「2枚で8にするゲーム」をします。
・おとなりさんと机をあわせます(作業)。ブロックは8こありますね。
・数カードを出します。
・「7」までのカードを出します。あとはしまいます(作業)。
・2人のカードをあわせて混ぜます。並べます(作業)。
・じゃんけんをして、勝った人から始めます。
・先生が合図をするまで、何回でもやります(ゲームをする)。
※合図で片付ける
(12)・鉛筆の絵を見ます。
・出ている鉛筆は何本ですか(3本)。立っている鉛筆は何本ですか(5本)。
・鉛筆は何本ですか(8本)。□に「8」と書きます。
・「3と5で8」(同)「8は3と5」(同)。
・説明練習をします。
「出ている鉛筆は3本です」(同)「入っている鉛筆は5本です」(同)
「鉛筆は3と5で8本です」(同)。
(出ている鉛筆は3本です。入っている鉛筆は5本です。
鉛筆は3と5で8本です)。　※りんご以外同様
(13)・りんごの絵を見ます。
・赤いリンゴは何こですか(4こ)。緑色のリンゴは何個ですか(4こ)。
・りんごは何こですか(8こ)。書きます。
・「4と4で8」(同)「8は4と4」(同)。
(赤いリンゴは4こです。緑色のリンゴは4こです。
リンゴは4と4で8こです)。
・こんな言い方もあります。
・かごに入っているリンゴは何こですか(6こ)。
出ているリンゴは何こですか(2こ)。
・りんごは何こですか(8こ)。
・「6と2で8」(同)「8は、2と6」(同)。
(かごに入っているリンゴは6こです。出ているリンゴは2こです。
リンゴは6と2で8こです)。
・分け方は違いますが、どちらの分け方でも8こです。
(14)・スキル9番の上だけをやります。できたら先生チェック。

★ポイント(10112)

(1)ブロックを使って「8」を分解する。

(2)ブロックを使って「8」に合成する。

(3)「2枚で8ゲーム」をする。
○「1～7」のカード14枚を、裏返しにして並べる。
○Ａが、カード2枚を取る。結果を言う。「5と3で8」。カード2枚もらう。
○Ｂが、カード2枚を取る。結果を言う。「1と3で4」。カードをもどす。
○最後にカードの枚数を数える。カードが多い人の勝ち。

(4)様々な条件を作る
○同質(コップ)…上下で分ける

《おしゃべり》
(1)上の段のコップは4こです。
(2)下の段のコップは4こです。
(3)コップは、4と4で8こです。

○同質異場所(鉛筆、金魚、かめ)…明確な位置で分ける

《おしゃべり》
(1)石の上にいる亀は7匹です。
(2)泳いでいる亀は1匹です。
(3)亀は、7と1で8匹です。

○色違い(あめ)…色で分ける

《おしゃべり》
(1)オレンジ色のあめは5こです。
(2)桃色のあめは4こです。
(3)あめは、5と4で9こです。

○2種類の条件(りんご)…色で分ける、場所で分ける

どちらでも言えるようにする。

《おしゃべり》
(1)緑色のりんごは4こです。
(2)赤色のりんごは4こです。
(3)りんごは、4と4で8こです。

(1)かごに入っているりんごは6こです。
(2)出ているりんごは2こです。
(3)りんごは、6と2で8こです。

10113　◇第13時の授業　p24, p25

(1)・24ページを開きます。　※黒板に数字カードと数図カードを貼る
(2)・追い読みをします。　※追い読み
「9は」(同)「いくつといくつ」(同)「数字で9」(同)「数図で9」(同)
「ブロックで9」(同)「9は」(同)「いくつといくつですか」(同)。
(3)・上のブロックを見ます。ブロックは何こありますか(9こ)。
・5と6の間が少し空いていますね。
・どのように数えましたか(5, 6, 7, 8, 9)。
(3)・右側の絵を見ます。男の子と女の子が「数当てゲーム」をしています。
・どんなゲームか。　※板書「かずあてげえむ」
・女の子の机の上に数字カードの山があります。裏返しにしてます。
女の子が1枚目をめくりました。「6」でした。
・そして女の子は「あといくつで9になるかな」と言っています。
・男の子の机の上を見ます。ブロックを9こ置いています。
・男の子はどのようにブロックを動かして答えればいいですか
ということが今日の勉強です。
(4)・数当ての練習をしてから、ゲームをします。
・ブロックを9こ並べます。　※演示
・「6」の数字カードなので、6こ数えて脇に寄せます。　※演示
・残ったブロックをひっくり返して白色にします。　※演示
・白いブロックの数を数えます(3)。
・男の子の所の「9のさくらんぼ図」の「□の実」に、3と書きます。
・分ける言い方で、「9のさくらんぼ図」を読みます。「9は、6と3」(同)。
(5)・同じようにやってみます。ブロックケースを出します。
・机の上にブロック9こ並べます(①並べる)。
・6こを数えて脇に寄せます(②寄せる)。
・残っている3このブロックをひっくり返します(③白にする)。
・白いブロックは何こですか(④3こ)。
(6)・女の子の代わりに先生がカードを出します。
みんなは、ブロックを使って答えます。
答えが分かったら、だまって手を挙げます。
・では、第1問。　※「5」を見せる(作業。挙手)。※10秒程度待つ
・答えは(4です)。
・「9は5と4」(同同同)。「5と□」の□に4を書きます(書く)。
・第2問。　※「6」を見せる(作業。挙手)。※10秒程度待つ
・答えは(3です)。
・「9は、6と3」(同同同)。「6と□」の□に3を書きます(書く)。
※以下同様
※可能であれば、さくらんぼの時は「20玉そろばん」を使う
1段目の9と1の間をクリップで止め、9だけを使う
(7)・下に、「9のさくらんぼ図」が3つあります。
・これまでと同じようにして、「□の実」に数を入れます(作業)。
・答え合わせをします。
・Ｂさん、「5と□」の答えを言って下さい(9は、5と4)。
・あわせる言い方で言います(5と4で9)。
・みんなで言います。「9は、5と4」(同)「は5と4で9」(同)。※以下同様
(8)・次のページにも、「9のさくらんぼ図」が6つあります。
・同じようにして、「□の実」に数を入れます(作業)。

・答え合わせをします。
・Ｃさん、8と□の答えを言って下さい(9は、8と1)。
・あわせる言い方で言います(8と1で9)。
・みんなで言います。「9は、8と1」(同)「8と1で9」(同)。　※以下同様
(9)・では、「数当てゲーム」をします。　※模範演技の児童2名を前へ
・おとなりさんと机をあわせます(作業)。ブロックは9こありますね。
・数カードを出します。
・「8」までのカードを出します。あとはしまいます(作業)。
・カードを裏返しの山にして机の上に置きます。
・じゃんけんをします。勝った人が1枚めくります。
・そして「あといくつで9ですか」と言います。
・じゃんけんで負けた人が答えます。「3です」と言います。
・勝った人は「あたりです」とか「はずれです」と言います。
・先生が合図をするまで、何回でもやります(ゲームをする)。
※合図で片付ける
(10)・金魚の絵を見ます。
・赤い金魚は何匹いますか(6匹)。黒い金魚は何匹いますか(3匹)。
・金魚は何匹いますか(9匹)。□に「9」と書きます。
・「9は、6と3」(同)「6と3で9」(同)。
・説明練習をします。
「赤い金魚は6匹です」(同)「黒い金魚は3匹です」(同)
「金魚は6と3で9匹です」(同)。
(赤い金魚は6匹です。黒い金魚は3匹です。金魚は6と3で9匹です)。
※クッキー以外同様
(11)・クッキーの絵を見ます。
・黒いクッキーは何こですか(4こ)。白いクッキーは何こですか(5こ)。
・クッキーは何こですか(9こ)。書きます。
・「9は4と5」(同)「4と5で9」(同)。
(黒いクッキーは4こです。白いクッキーは5こです。
クッキーは4と5で9こです)。
・こんな言い方もあります。
・おぼんにあるクッキーは何こですか(7こ)。
お皿にあるクッキーは何こですか(2こ)。
・クッキーは何こですか(9こ)。
・「9は、7と2」(同)「7と2で9」(同)。
(おぼんにあるクッキーは7こです。お皿にあるクッキーは2こです。
クッキーは7と2で9こです)。
・分け方は違いますが、どちらの分け方でも9こです。
(12)・スキル9番の下をやります。できたら先生チェック。

★ポイント(10113)

(1)ブロックを使って「9」を分解する。

(2)ブロックを使って「9」に合成する。

(3)「数当てゲーム」をする。
○「1～8」までのカード8枚を、裏返しにして重ねる。
○じゃんけんをする。勝った人Ａがカードをめくる。
○Ａが、「あといくつで9ですか」と言う。
○Ｂは「3です」と答える。
○Ａは、「あたりです」か「はずれです」と言う。交代する。

(4)様々な条件を作る
○同質異場所(クレヨン)…明確な位置で分ける

《おしゃべり》
(1)箱に入っているクレヨンは8本です。
(2)出ているクレヨンは1本です。
(3)クレヨンは、8と1で9本です。

○色違い(金魚、チョウチョ、ジュース、花)…色で分ける

《おしゃべり》
(1)赤い金魚は6匹です。
(2)黒い金魚は3匹です。
(3)金魚は、6と3で9匹です。

○2種類の条件(クッキー)…色で分ける、場所で分ける

どちらでも言えるようにする。

《おしゃべり》
(1)黒いクッキーは4こです。
(2)白いクッキーは5こです。
(3)クッキーは、4と5で9こです。

(1)おぼんに入っているクッキーは7こです。
(2)お皿にあるクッキーは2こです。
(3)クッキーは、7と2で9こです。

10114　◇第14時の授業　p26, p27

※黒板に数字カードと数図カードを貼る

(1)・26ページを開いたら，教科書を持って立ちます。
(2)・追い読みをします。　※追い読み→1人読み
「10は」(同)「いくつといくつ」(同)「数字で10」(同)「数図で10」(同)
「ブロックで10」(同)。
(3)・上のブロックを見ます。ブロックは何こありますか(10こ)。
・10のときは、5と6の間が空いていませんね。
・なぜ、すぐに10と分かるのですか(ケースに全部入ったから)。
・数図も、上の段の5こと下の段5こで、全部埋まりました。
(4)・右側の絵を見ます。先生がブロック棒1本を持っています。
・先生がブロック棒の青いケースをずらしています。
・ブロックは何こ見えますか(4こ)。
・青いケースで隠れてるブロックは何こかというのが今日の勉強です。
(5)・脇の男の子の机の上を見ます。ブロックが10こあります。
・先生がブロックを4こ見せたので、4つ分を寄せています。丸囲み。
・男の子が寄せていないブロックを数えています。いくつですか(6)。
・10は4と6に分かれました。
・男の子と同じことを言います。「10は、4と6」(同同同)。
(6)・ブロック棒1本を出します(作業)。　※左側から取り出せる配置
・机の上に置きます。
・ブロック4つが見えるように、青いケースをずらします(ずらす)。
・見えている4つのブロックを取り出します(取り出す)。
・ケースを外して、隠れていたブロックは何こか数えます(6こ)。
・最初のブロック棒の絵を見ます。説明します。「10は、4と6」(同)。
・ブロックをケースに戻します。
(7)・次のブロックの絵を見ます。
・見えているブロックは何こですか(1こ)。
・絵と同じように、ブロック棒のケースをずらして置きます。
・見えている1つのブロックを取り出します(取り出す)。
・ケースに隠れているブロックは何こか数えます(9こ)。
・説明します。「10は1と9」(同同同)。横にある「□と□」に「1と9」。
(8)・その下、ブロックが3つ見えているブロック棒を見ます。
・同じようにして調べて書いていきます。
・書き終わった人は先生チェック。合格したら残り全部やります。
最後まで書いたら、また先生チェック。　※先生チェック
※可能であれば、さくらんぼの時は「20玉そろばん」を使う
1段目だけを使う
(9)・次のページを見ます。「10のさくらんぼ図」がたくさんあります。
・「□の実」に数字を書きます。ブロックで調べながら書きます。
・ますりんより前の問題が全部できたら先生チェック。
・合格したら、残りの3問をやります。
(10)・最後の3つの「10のさくらんぼ図」は特別です。
・ますりんが言っています「自分で数を決めてみよう」
・「□の実」が2つになっています。
あわせて10になる数2つを自分で考えます。　※先生チェック
(11)・　※「数図」9こ分のプリントを用意
※「ぬった数」と「ぬらない数」を記入する

・合格した人は、「数図」のプリントをやります。
(12)・順番に言います。
「10は1と9」(同)「10は2と8」(同)「10は3と7」(同)「10は4と6」(同)
「10は5と5」(同)「10は6と4」(同)「10は7と3」(同)「10は8と2」(同)
「10は9と1」(同)。
・百玉そろばんでやります。　※「10は1と9」～「10は9と1」
(13)・スキル10番をやります。できたら先生チェック。

★ポイント(10114)

(1)ブロックを使って「10」を分解する。

(2)ブロックを使って「10」に合成する。

(3)「10のさくらんぼ図」を使って、10の補数関係があることを知る。
・1と9
・2と8
・3と7
・4と6
・5と5

(4)「数図」を使って、10の補数関係があることを知る。
・ぬった数とぬらない数

(5)「百玉そろばん」を使って、10の補数関係があることを知る。
○視覚で覚える。
「10は1と9」(同)「10は2と8」(同)「10は3と7」(同)「10は4と6」(同)
「10は5と5」(同)「10は6と4」(同)「10は7と3」(同)「10は8と2」(同)
「10は9と1」(同)。

(6)「20玉そろばん」を使って、10の補数関係があることを知る。
○触覚で覚える。
「10は1と9」(同)「10は2と8」(同)「10は3と7」(同)「10は4と6」(同)
「10は5と5」(同)「10は6と4」(同)「10は7と3」(同)「10は8と2」(同)
「10は9と1」(同)。

(7)リズムを使って、10の補数関係があることを知る。

○4拍子のリズムで言う。

♩	♩	♩	♩
・10は	1と	9	休
・10は	9と	1	休
・ 1	と	9	は
なか	よし	です	休

《おしゃべり》
(1)10は1と9。
(2)10は9と1。
(3)1と9はなかよしです。

10115　◇第15時の授業　p28, p29

※作業効率上、そろばんが便利

(1)・28ページを開いたら,教科書を持って立ちます。
(2)・追い読みをします。　※追い読み→1人読み
「10をつくろう」(同)「あといくつで」(同)「10になりますか」(同)。
・立って自分の力で1回読みます。
読み終わったら座って何回も読んでいます。
(3)・下の絵を見ます。黒い服を着た女の先生と子どもが4人います。
・先生が「3」の数字カードを出しています。
そして、「あといくつで10になりますか」と聞いています。
・赤い服を着た男の子が、すぐに「7」と答えています。
・となりの黄色い服を着た女の子は、指を使って7と答えています。
・桃色の服を着た女の子は「10のさくらんぼ図」で考えています。
そして、ブロックを使っています。
・青い服を着た男の子は「6」と言っていますが違いますね。7です。
・そのほかに、皆さんなら、20玉そろばんも使えますね。
※数字を書き込める□が10こあるプリントを配布
(4)・ブロック(か20玉そろばん)を準備します。
・指を使ってもいいです。ブロックを使ってもいいです。
何もなくても書ける人は、書いてもいいです。
(5)・先生問題の1番。(9を出す)　(プリント①□に「1」と書く)
・答え合わせをします。　※ブロック(か百玉そろばん)で答えを示す
・当たった人は赤丸をつけます。もし間違えたら赤で「1」と書きます。
※全10問出す
(6)・(教師用百玉そろばんかブロック模型を出して)
・追い読みします。
・「10は1と9」(同)「10は2と8」(同)「10は3と7」(同)「10は4と6」(同)
「10は5と5」(同)。　※激励含め3回行う
・続きがあります。
「10は5と5」(同)「10は6と4」(同)「10は7と3」(同)「10は8と2」(同)
「10は9と1」(同)。　※激励含め3回行う
(7)・(児童用20玉そろばんかブロックを出して)
・ゆっくり言います。
「10は1と9」(同)。玉を1こ動かします。
「10は2と8」(同)。玉を1こ動かします。　※「10は9と1」まで同様
(8)・自分のペースで全部やります。何回もやります。
・できる人は、玉を動かさないで言えるようにします。
(10は1と9、10は2と8、…、10は8と2、10は9と1)。
(9)　※黒板用数字カードを用意　指さしながら言う
・10は1と9。10は9と1。なので1と9は仲良しです。　※並列表示
・10は2と8。10は8と2。なので2と8は仲良しです。　※並列表示
・10は3と7。10は7と3。なので3と7は仲良しです。　※並列表示
・10は4と6。10は6と4。なので4と6は仲良しです。　※並列表示
・10は5と5。なので5は双子で仲良しです。　※5を2枚表示
(10)・黒板の数字カードを見ながら言います。
・「10は1と9」(同)「10は9と1」(同)「1と9はなかよしです」(同)。
・「10は2と8」(同)「10は8と2」(同)「2と8はなかよしです」(同)。
・「10は3と7」(同)「10は7と3」(同)「3と7はなかよしです」(同)。

・「10は4と6」(同)「10は6と4」(同)「4と6はなかよしです」(同)。
・「10は5と5」(同)「10は5と5」(同)「5と5はなかよしです」(同)。
(11)・p28の下の方を見ます。
・数字がたくさん並んでいます。その中から「なかよし」を囲みます。
・「5と5」は双子で仲良しでした。だから灰色の線で囲んでいます。
なぞって囲みます(作業)。
・「4と6」は仲良しでした。だから灰色の線で囲んでいます。
なぞって囲みます(作業)。
・下の方の5と5は仲良しです。このように斜めでも囲うことができます。
囲っている途中なので、全部囲みます(作業)。
・ほかにも、まだ仲良しがいます。見つけて囲みます(作業)。
ヒントです。全部で9こです。　※答え合わせはICTを使う
・その隣をやります。ヒントは全部で7こです。　※ICT答え合わせ
(12)・p29を見ます。最初の風船の絵を見ます。
・黄色い風船は何こですか(5こ)。赤い風船は何こですか(5こ)。
・風船は何こですか(10こ)。□に「10」と書きます。
・「10は、5と5」(同)「5と5で10」(同)。
・説明練習をします。
「黄色い風船は5こです」(同)「赤い風船は5こです」(同)
「風船は5と5で10こです」(同)。
(黄色い風船は5こです。赤い風船は5こです。風船は5と5で10こです)。
※金魚以外同様
(13)・金魚の絵を見ます。
・黒い金魚は何匹ですか(3匹)。赤い金魚は何匹ですか(7匹)。
・金魚は何匹ですか(10匹)。書きます。
・「10は、3と7」(同)「3と7で10」(同)。
(黒い金魚は3匹です。赤い金魚は7匹です。金魚は3と7で10匹です)。
・こんな言い方もあります。
・袋の中にいる金魚は何匹ですか(4匹)。
水槽にいる金魚は何匹ですか(6匹)。金魚は何匹ですか(10匹)。
・「10は4と6」(同)「4と6で10」(同)。
(袋の中にいる金魚は4匹です。水槽にいる金魚は6匹です。
金魚は4と6で10匹です)。
・分け方は違いますが、どちらの分け方でも10匹です。
(14)・スキル11番をやります。できたら先生チェック。

★ポイント(10115)

(1)様々な方法で「10」を分解する。

(2)様々な方法で「10」に合成する。

(3)様々な方法で、10の補数関係があることを知る。

- 1と9
- 2と8
- 3と7
- 4と6
- 5と5

(4)様々な条件を作る

○同質異場所(花、トマト、アヒル、色鉛筆)…明確な位置で分ける

《おしゃべり》
(1)花瓶にある花は7本です。
(2)花束にしている花は3本です。
(3)花は、7と3で10本です。

○色違い(風船、ドーナツ、アイス、クッキー)…色で分ける

《おしゃべり》
(1)茶色のアイスは6本です。
(2)桃色のアイスは2本です。
(3)アイスは、6と2で8本です。

○2種類の条件(くま、金魚)…色で分ける、場所で分ける
帽子のありなしで分ける

どちらでも言えるようにする。

《おしゃべり》
(1)上の段のクマは5匹です。
(2)下の段のクマは5匹です。
(3)クマは、5と5で10匹です。

(1)帽子をかぶっているクマは
2匹です。
(2)帽子をかぶっていないクマは
8匹です。
(3)クマは、2と8で10匹です。

10116　◇第16時の授業　p30

(1)・30ページを開きます。
(2)・追い読みをします。　※追い読み→1人読み
「大きさを比べよう」(同)。
(3)・下の女の子と男の子の絵を見ます。
・女の子も男の子も、机の上にカードの山を作っています。
指さします。　※確認
・2人は、カードの山の上から1枚をめくって比べています。
・女の子のカードは何ですか(5)。男の子のカードは何ですか(8)。
・数が大きい方はどちらですか(8)。
・数が大きい方を勝ちとします。数が小さい方を負けとします。
・勝ったのはどちらですか(男の子)。こういうゲームです。
(4)・その下の絵を見ます。
・1回戦はこれ(左側)です。どちらも数図カードでゲームしています。
・上の男の子はいくつですか(3)。下の女の子はいくつですか(6)。
・どちらが勝ちましたか(女の子)。
・2回戦はこれ(中)です。
どちらかが数図カードで、どちらかが数字カードです。
・上の男の子はいくつですか(7)。下の女の子はいくつですか(7)。
・どちらが勝ちましたか(引き分け)。
・3回戦はこれ(右側)です。どちらも数字カードでゲームしています。
・上の男の子はいくつですか(10)。下の女の子はいくつですか(9)。
・どちらが勝ちましたか(男の子)。
(5)・では、ゲームの準備をします。
・数図カードを出します(出す)。10枚あるかどうか確かめます。
・カードをきります。　※実演
先生のやり方でも混ぜるやり方でもいいです(混ぜる)。
・そして、山にして、机の上に置きます(置く)。
※児童ペアを代表として教卓に出す
(6)・2人でかけ声をかけます。
・「いちにーのーさん」と言って、同時にカードを見せ合います。
・Ａさんは「6」、Ｂさんは「9」。どちらが勝ちましたか(Ｂさん)。
・Ｂさんは「9」のカードを机の上の方に置きます。　※示す
・Ａさんは「6」のカードを机の下の方に置きます。　※示す
(7)・そしてまた「いちにーのーさん」と言って、カードを見せ合います。
・Ａさんは「7」、Ｂさんは「7」。どちらが勝ちましたか(同じ)。
・同じ数の時は引き分けです。机の中の方に置きます。　※示す
・これを、カードの山がなくなるまでやります。
・全部終わったら、お互いに勝ったカードの数を数えます。
Ａさんは6枚。Ｂさんは4枚。どちらが勝ちましたか(Ａさん)。
・これで1回戦終わりです。
(8)・同じように、お隣同士でやります。
・早く終わった人はもう一回やっています。　※2回戦3回戦も同様
(9)・ペアを変えます。　※2列のうち1列をずらす
・1回戦からやります。

★ポイント(10116)

(1)「大きさ比べゲーム」をする。

○「数図」は量感があるので、わかりやすい。

○「数字」は抽象なので量感がなく、わかりにくい。

(2)手順

《手　順》

(0)[A児もB児もそれぞれ１～10の10枚のカードを裏返しにして,1つの山にする]

(1)お互いに「いちにーのーさん」で同時にカードを出す。

(2)数の大きいカードが勝ち。

「勝ちカード」→机上部に置く

「引分カード」→机中部に置く

「負けカード」→机下部に置く。

(3)「勝ちカード」の数を数える。

勝ちの枚数の多い人の勝ち。

1回戦…数図　対　数図

2回戦…数字　対　数図

3回戦…数図　対　数字

4回戦…数字　対　数字

10117　◇第17時の授業　p31

(1)・31ページを開きます。
(2)・下のブロックの絵を見ます。
・一番端のここ(左側)は、ブロック何こありますか(1こ)。
・□に「1」と書きます(1)。
・その隣はブロック何こありますか(2こ)。□に書きます(2)。
・同じようにして10まで書きます(3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10)。
(3)・一番大きい数は何ですか(10)。次に大きいのは(9)。
・8, 7, 6といくと、ブロックの高さがだんだん低くなっていきますね。
(4)・10のブロックを見ます。
・ちょっと空いているところがあります。このように線をかきます。
・線の上はいくつありますか(5)。線の下はいくつありますか(5)。
・一緒に言います。「10は5と5」(同同同)。
(5)・9のブロックを見ます。　※以下9～6まで同様
・5のブロックは分けることはありません。4, 3, 2, 1もわけません。
(6)・これは「数図」と同じです。
・数図の10～6を並べます。
・10の数図を見ます。上の段は何こですか(5)。下の段は何こですか(5)。
一緒に言います。「10は5と5」(同同同)。
・9の数図を見ます。　※以下9～6まで同様
(7)・p31の真ん中に「数の線」があります。小さい順に並んでいます。
・一番上の数の線を見ます。
・1の次は何ですか(2)。書きます(2)。次は3。次は何ですか(4)。
書きます(4)。次は5、次は6、次は何ですか(7)。書きます。
・同じようにして、その下の2つの数の線の□の中に数を書きます。
※答え合わせ
(8)・p31の黒板の絵を見ます。
・これは「数ならべゲーム」の途中の絵です。
・赤い服を着た男の子と青い服を着た女の子が2人でやっています。
・黒板の下には、裏返した数字カードがあります。指します(指す)。
・男の子がその中から1枚の数字カードを引きました。
・「3」のカードを引きました。。そのカードを黒板の所に置きます。
・どこに置けばいいですか(2と4の間)。ここに置けばいいですね。
・次に女の子が9のカードを引いたとします。どこに置けばいいですか
(8と10の間)。
・このようにして、順番にカードを引いて数の線を作るゲームです。
(9)・おとなりさんどうし、机をくっつけます。
・窓側さん(左側)は数字カードを出します(数字カード10枚出す)。
・2人で協力して、このように(黒板表示)数字カードを並べます。
※左側の机は1～5カード、右側の机は6～10カード　確認
・カードを全部裏返しにします。混ぜます。1つの山にします。
2人の真ん中にカードの山を置きます。
※代表ペアで例示する
(10)・まずじゃんけんをします(じゃんけんぽん)。
・勝ったＡさんからカードを引きます(5カードをとる)。
・さっき5があったところはどこですか(置く)。
・次はＢさんがカードを引きます(8カードをとる)。
・さっき8があったところはどこですか(置く)。

・このようにして、最後まで進めます。
(11)・同じように、お隣同士でやります。
・早く終わったペアは、カードを裏返してもう一回やります。
※全員が1回終了したところで「やめ」
(12)・カードを並べる所を変えます。
・2人で協力して、このように(黒板表示)数字カードを並べます。
※左側の机の上段に1～5カード，下段に6～10カード　確認
・数図カードみたいな並べ方です。
・カードを全部裏返しにします。混ぜます。1つの山にします。
2人の真ん中にカードの山を置きます。
・では、さっきと同じようにカード並べゲームを始めます(作業)。
(13)・スキル12番をやります。できたら先生チェック。

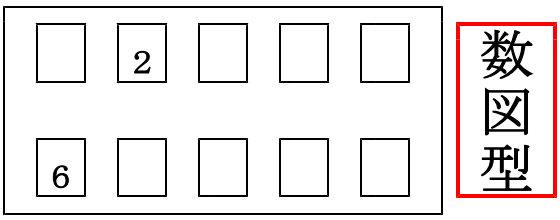
★ポイント(10117)

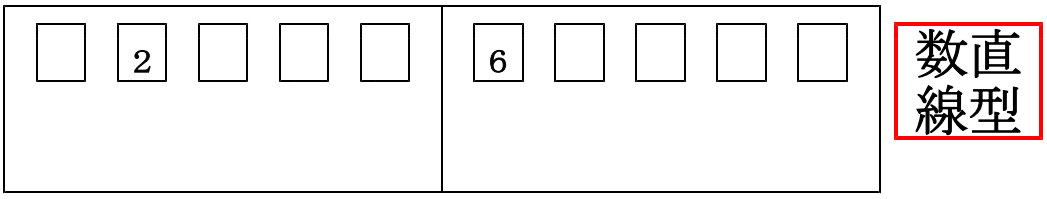
(1)「数ならべゲーム」をする。
○右へ進むほど大きい数になる。

(2)手順
○ペアでゲームをする。

(3)2種類の場設
○数図型…1つの机で並べる。
○数直線型…2つの机をつける
1列になる。

《手　順》
(0)[黒板に1～10の指定場所を示す]
(1)じゃんけんで先攻後攻を決める。
(2)A児が1枚目をめくる。
(6でした)
(3)A児が「6」を指定場所に置く。
※机2つVerと机1つVer
(4)B児が1枚目をめくる。
(2でした)
(5)B児が「2」を指定場所に置く。
※以下同様。





10118　◇第18時の授業　p32, p33

(1)・32ページを開きます。
(2)・追い読みをします。　※追い読み→1人読み
「0という数」(同)。
・ゼロではありません。ゼロは英語です。日本語は「れい」です。
・「0という数」(同)。
(3)・輪投げをしている絵を見ます。
・うさぎさん、ねこさん、くまさんの3人で遊んでいます。
・今から投げるのはうさぎさんです。
・うさぎさんはどこにいますか(青い線の所)。
この青い線の所から輪投げの棒へ向かって投げます。
・輪は全部で何こありますか(3こ)。赤と黄色と緑の3こですね。
・うさぎさんはどのくらい入ったかというと、下の絵にあります。
・うさぎさんは何こ入りましたか(3こ入りました)。
・次はねこさんです。ねこさんは何こ入りましたか(2こ入りました)。
・次はくまさんです。くまさんは何こ入りましたか(入っていません)。
(4)・くまさんは1こも入っていませんね。
・入っていないことを算数では「0こ入りました」と言います。
・言い方を練習します。「0こ入りました」(同同同)。
(5)・「0」を書く練習をします。　※黒板に大きく「0」をかく
・「空中指書き」をします。人差し指を出します。
黒板の「0」を「回って回ってペタ」となぞります。
・人差し指を出して!(出す)。「回って回ってペタ」(同)。
・自分のペースで3回、「回って回ってペタ」と言いながらなぞります。
3回なぞり終わったら、手を戻します。
(6)・黒板の別の場所に「0」を3回書きます(回って回ってペタ)。
(7)・「指書き」をします。灰色で書いてある「0」を見ます。
・そこに、指で(ICT)このようになぞります。　※演示する
赤ポツからスタートして、「ペタ」で赤ポツにつけるのです。
・自分のペースで3回、「回って回ってペタ」と言いながらなぞります。
3回なぞり終わったら、手を戻します。
(8)・「鉛筆なぞり書き」をします。、この2つの灰色の「0」をなぞります。
・鉛筆を持ちます。2つともなぞれたら、鉛筆を置いて手を挙げます。
※先生チェック(丸付け)
(9)・次は「写し書き」をします。そのとなりの1マスに赤い点があります。
赤い点からスタートして赤い点でゴールです。
・鉛筆を持ちます。なぞれたら、鉛筆を置いて手を挙げます。
合格した人は、残りのマス全部に「0」を書きます(書く)。
※先生チェック(丸付け)
(10)・その下の絵を見ます。4人のりすさんの前にドーナツがあります。
数えて、□に数字を書きます。
・ドーナツは何こありますか
(3こあります。2こあります。1こあります。0こあります)。
(11)・その下の絵を見ます。箱の中にいちごがあります。
数えて、□に数字を書きます。
・いちごは何こ入っていますか
(4こ入っています。0こ入っています。2こ入っています)。
(12)・次のページを見ます。追い読みをします。

「声に出して言おう」(同)「10までの」(同)「数を」(同)「言いましょう」(同)「2つずつ」(同)「順番に」(同)「言ってみましょう」(同)。

(13)・まず先生が「1, 2」と言います。そしたらみんなが「3, 4」と言います。
・やってみます。「1, 2」(3, 4)。
・先生が「5, 6」と言ったらみんなは「7, 8」と言います。
・やってみます。「5, 6」(7, 8)。「9. 10」。では言います。
・「1, 2」(3, 4)。「5, 6」(7, 8)。「9. 10」。
・今度はみんなから「1, 2」と言い始めます。
(1, 2)「3, 4」(5, 6)「7, 8」(9, 10)。

(14)・今度はみんなだけでやります。 ※代表ペアを立たせる
・じゃんけんをします。勝った人から始めます。 ※実演
・終わったらまたじゃんけんをして2回目をやります。
・全員起立。じゃんけんからスタート。 ※合図で終了。座る

(15)・真ん中の絵を見ます。「途中から3つ言ってみましょう」とあります。
・女の子が「3」と言いました。男の子は続けて「4, 5, 6」と言いました。
・例えば先生が「5」と言ったらみんなは何と言いますか(6, 7, 8)。
・例えば先生が「1」と言ったらみんなは何と言いますか(2, 3, 4)。
・例えば先生が「8」と言ったらみんなは9, 10だけ言って下さい。
最後は10だからです。
・やってみます。「4」(5, 6, 7)。「7」(8, 9, 10)。「9」(10)。

(16)・今度はみんなだけでやります。全員起立。じゃんけんからスタート。
※合図で終了。座る

(17)・一番下の絵を見ます。「大きい数から言ってみましょう」とあります。
・10からスタートして、9, 8, 7, 6, …とだんだん小さくなる言い方です。
・みんなでさんはい(10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1, 0)。
・最後はゼロではなく「れい」と言った人はすごい！
・もう一度。さんはい(10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1, 0)。
※百玉そろばんを使いながら言う

(18)・スキル13番をやります。できたら先生チェック。

★ポイント(10118)

(1)皿にドーナツがない状態の表現
〇おさらにドーナツがありません。 ゼロ
↓ ↓
〇おさらにドーナツが0こあります。 れい
〇答え方 (I have no pen. と同じ発想)
・うさぎさんは何こ入りましたか(3こ入りました)
・ねこさんは何こ入りましたか (2こ入りました)
・くまさんは何こ入りましたか (0こ入りました)

(2)声に出して言う。声の掛け合い。
①「先生」対「子ども全員」
②「子どもグループ」対「子どもグループ」
③「子ども1人」対「子ども1人」

(3)数の途中から言う。

(4)逆唱する。

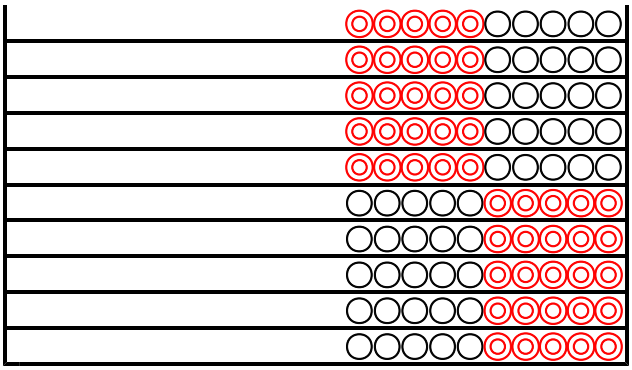
◇第0時授業外で百玉そろばん(1)

※朝活動時等で行う。5分以内で、テンポ良く行う。継続する。
※導入のタイミング…p14に入るまでに導入する。

◎最初の形

《手　順》
(1)全段,児童から見て右寄せ
(上から5段は左側赤,右側黄)
※景気よく快音を出してそろえる。

※最初の形
(児童側から見た基本の形)
◎‥赤
○‥黄



①順唱(1ずつ)

(T1)百玉そろばん。＊最初の形にする	(C1)百玉そろばん。
(T2)1ずつ。	(C2)1ずつ。
(T3)5まで。	(C3)5まで。
(T4)　〔操作〕	(C4)1,2,3,4,5。
〈バリエーション〉	(T3)7まで,10まで,20まで

②逆唱(はんたい)

(T1)百玉そろばん。＊最初の形にする	(C1)百玉そろばん。
(T2)逆唱。(はんたい)	(C2)逆唱。(はんたい)
(T3)5から。	(C3)5から。
(T4)　〔操作〕＊一気に5を出す	(C4)5,4,3,2,1,0 (れい)。
〈バリエーション〉	(T3)7から,10から

③数当て(視覚で数を言い当てる)

※数図と関連させる
(上段…赤、下段…黄)

(T1)百玉そろばん。＊最初の形にする	(C1)百玉そろばん。
(T2)数当て。	(C2)数当て。

(T3)　〔一気に５を出す〕	(C3)　〔挙手〕
(T4)答えは！	(C4)５です！
〈ステップ〉	A2, 3, 4, 5 …赤玉のみ
	B6, 7, 8 …黄玉1は6。黄玉2は7。黄玉3は8。
	C8, 9, 10 …全部は10。1玉残りは9, 2玉残りは8

〈ポイント〉

○Ｔ4…2秒ほど待ったら，すぐに言う（全員挙手しなくても進める）。

※はんたい数当て（「10の分解」の前にやる）

(T2)反対数当て。　(C2)反対数当て。

*10の補数を答える。

④目かくし（聴覚で数を言い当てる）

(T1)百玉そろばん。＊最初の形にする	(C1)百玉そろばん。
(T2)目かくし。	(C2)目かくし。〔目をつぶる〕
(T3)　〔順唱で５の操作〕	(C3)　〔聞くだけ〕
(T4)いくつですか？	(C4)　〔挙手〕
(T5)答えは！	(C5)５です！
〈ステップ〉	A 5～10
	B11～15 ※大きい音で10を一気に出す方法も
	C16～20 ある。
	D20～100 ※十の位と一の位で音の大小区別

〈ポイント〉

○Ｃ２…目隠しの方法（目をつぶる，手で目をおおう，机に伏す等）

◇第0時授業外で百玉そろばん(2)

※朝活動時等で行う。5分以内で、テンポ良く行う。継続する。
6～10の分解合成も同様に行う。

①一段目だけを使って分解練習

※5と5の間にクリップ入れる

「5は　1と4」　－　●←　○○○○　CLIP　○○○○○

「5は　2と3」　－　○●←　○○○　○○○○○

「5は　3と2」　－　○○●←　○○　○○○○○

「5は　4と1」　－　○○○●←　○　○○○○○

「5は　5と0」　－　○○○○●←　○○○○○

＜１＞追い読み

(T1) 百玉そろばん。	(C1) 百玉そろばん。
(T2) ５をわける。	(C2) ５をわける。〔中央に出す〕
(T3) ＊玉移動５は１と４。	(C3) ５は１と４。
(T4) ＊玉移動５は２と３。	(C4) ５は２と３。
(T5) ＊玉移動５は３と２。	(C5) ５は３と２。
(T6) ＊玉移動５は４と１。	(C6) ５は４と１。
(T7) ＊玉移動５は５と０。	(C7) ５は５と０。

＜２＞ほぼ全部児童　　※途中から児童のみ言う

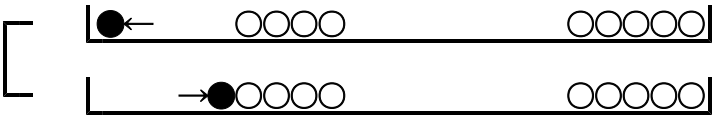
(T1) 百玉そろばん。	(C1) 百玉そろばん。
(T2) ５をわける。	(C2) ５をわける。〔中央に出す〕
(T3) ５は１と４。	(C3) ５は１と４。
	(C4) ５は２と３。
〔操作〕	(C5) ５は３と２。
	(C6) ５は４と１。
	(C7) ５は５と０。

＜３＞「10をわける」の場合　　※2回に分ける(1回目は10は5と5で終了)

(T1) 百玉そろばん。	(C1) 百玉そろばん。
(T2) 10をわける。	(C2) 10をわける。
(T3) 5と5から。	(C3) 5と5から。
(T4) 10は5と5。	(C4) 10は5と5。
	(C5) 10は6と4。
〔操作〕	(C6) 10は7と3。
	(C7) 10は8と2。
	(C8) 10は9と1。
	(C9) 10は10と0。

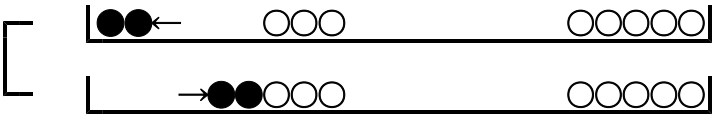
②一段目だけを使って合成練習

「1と4で5」



「2と3で5」

＊以下同



＜１＞追い読み

(T1) 百玉そろばん。	(C1) 百玉そろばん。
(T2) ５をつくる。	(C2) ５をつくる。〔中央に出す〕
(T3) １と４で５。	(C3) １と４で５。
(T4) ２と３で５。	(C4) ２と３で５。
(T5) ３と２で５。	(C5) ３と２で５。
(T6) ４と１で５。	(C6) ４と１で５。
(T7) ５と０で５。	(C7) ５と０で５。

＜２＞ほぼ全部児童

(T1) 百玉そろばん。	(C1) 百玉そろばん。
(T2) ５をつくる。	(C2) ５をつくる。〔中央に出す〕
(T3) １と４で５。	(C3) １と４で５。
	(C4) ２と３で５。
〔操作〕	(C5) ３と２で５。
	(C6) ４と１で５。
	(C7) ５と０で５。

◎児童用20玉そろばん

※教科書のブロックと併用する



《手　順》

(1) 上の段も下の段も，右寄せ
（上から５段は左側赤，右側黄）
※右手で縦に持ち上げて右寄せ。
上が赤であることを確認。
(2) 手元にそろばんをそっと置く。

①順唱(１ずつ)

(T1) 二十玉そろばん。	(C1) 二十玉そろばん。＊右手で最初の形
(T2) １ずつ。	(C2) １ずつ。　＊そろばんをそっと置く
(T3) ５まで。	(C3) ５まで。

	(C4)1,2,3,4,5。(自分のペースで操作) (C5)できました。〔挙手〕 (C6)〔おとなりチェック〕おっけい！

〈ポイント〉
○Ｃ６…ペアで,お互いにチェックし合う。合っていたら0.K.と言う。
隣を見て0.K.と言ったら、隣の人からそろばんをもらう。

②数おき(塊として一気に出す)

(T1)二十玉そろばん。 (T2)数おき。 (T3)　７！	(C1)二十玉そろばん。＊右手で最初の形 (C2)数おき。＊そろばんを置く (C3)　〔 7を出す〕 (C4)できました。〔挙手〕 (C5)〔おとなりチェック〕おっけい！

〈ポイント〉
○Ｃ３…下位群の,１つずつ移動していく行為は認める。